ジャパンラグビー　2021年度事業報告

公益財団法人　日本ラグビーフットボール協会

ジャパンラグビー　2021年度事業報告　目次

ジャパンラグビー　2021年度報告概要 3

2021年度事業報告

領域Ⅰ　組織刷新 4

領域Ⅱ　強化 18

領域Ⅲ　普及・育成 22

領域Ⅳ　リーグ改革 26

領域Ⅴ　社会連携 28

活動報告 31

競技運営委員会（大会運営部門） 32

トップリーグ部門 34

ジャパンラグビーリーグワン 34

代表強化部門　男子15人制 35

代表強化部門　男子7人制 36

代表強化部門　女子15人制 38

代表強化部門　女子7人制 38

専門委員会・諮問委員会 40

財務委員会（財務部門） 41

普及育成委員会（普及育成部門） 41

安全対策委員会 42

メディカル委員会 43

アンチ・ドーピング委員会 45

アスリート委員会 46

女子委員会 47

技術部門 47

ハイパフォーマンス委員会 49

ラグビー競技における

脊髄損傷への再生医療適応プロジェクト 49

支部協会 50

関東ラグビーフットボール協会 51

関西ラグビーフットボール協会 59

九州ラグビーフットボール協会 62

ジャパンラグビー　2021年度事業報告概要

平素より日本ラグビーフットボール協会事業へのご理解、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。2021年度における事業報告がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

昨年3月に発表した「ジャパンラグビー中期戦略計画 2021-2024」の中で、長期目標として掲げた Mission「ラグビーが世界一身近にある国へ」、Vision「世界のラグビーをリードし、スポーツを越えた社会変革の主体者となる」、Target「再びワールドカップを日本に招致し、世界一になる」を達成するため、私どもは「協会刷新」「強化」「普及・育成」「リーグ改革」「社会連携」という5つの領域に対して8つの目標と15のアクションプランを策定し、取り組みを進めました。

「協会刷新」加盟規程の制定、都道府県協会の法人化支援、ガバナンスコード対応等を進める一方、人材の採用や育成に関する人事戦略の策定を行いました。広報領域では女性活躍推進や英語対応の強化、SNS の積極的活用に取り組み、DX 領域では基盤システム構築やデータ活用に向けた検討に着手しました。また、経営の安定化を目指し、ウィズコロナを見据えたマーケティング戦略の策定、主催大会の収支改善、基金制度の拡充、助成金の活用にも取り組み、これらを中期財務計画としてまとめました。この他、さらなるインテグリティ追求のため、コンプライアンス体制の強化と安全管理体制の再整備に取り組みました。

「強化」代表チームの強化に加えて、チームを支える環境を整備するため、プレーヤーウェルフェアに取り組みました。リーグワンとの連携やアスリート委員会、ユース委員会の積極的活用も進めました。この他、メンバーズクラブの拡充を図ると共にハイパフォーマンス支援のための組織体制の整備を行いました。

「普及・育成」各種研修会を通して、指導者・レフリーの質量向上に取り組みました。また、支部協会や都道府県協会との連携強化を図り、ラグビー参画者の拡大に向けた環境改善を進めました。

「リーグ改革」移行初年度として、円滑な大会完遂のため、ラグビーサービス分野におけるサポート業務を中心に取り組みました。今年度からは事業性や社会性の向上にも積極的に取り組みます。

「社会連携」既存の国際貢献活動について、9月に公表した D&I ステートメントに沿って継続と強化を図りました。新たに取り組む事業については、内容の精査を進め個々の収支計画等を策定しました。

私ども協会役職員のみならず、日本ラグビーに関わる全ての人々が心を一つにワンチームとなって、世界一という目標に向けて、一歩一歩、歩みを続けて行ければと考えております。引き続き、全ての皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2021年度事業報告

領域Ⅰ　協会刷新

目標１　抜本的に組織を見直し、理念実現のための強固な経営基盤をつくる

目標２　経営の安定化を図り、未来への投資を拡充させるための財務基盤を確保する

目標３　安全で、誠実なラグビーを通じてラグビー憲章を守る

目標１　抜本的に組織を見直し、理念実現のための強固な経営基盤をつくる

アクションプラン１　組織基盤の強化　【COS/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	実績
1.都道府県協会の状況調査と法人化の推進	・加盟規程の制定 ・前年度の調査に基づくゴール（法人化かその他か等）の設定 ・非法人のガバナンスレベル標準の策定 ・法人化のためのサポート ・ガバナンス研修 ・ガバナンス強化事業　顧問弁護士設置	・加盟団体規程を制定し、同規程に基づき運用を開始した ・都道府県協会の事業計画・決算書の取りまとめ、法人化済み協会へヒアリングを実施し、都道府県協会へフィードバックを行った ・ガバナンスハンドブックを更新し、利益相反に関する情報提供を実施した
2.三支部協会/都道府県協会との連携体制のレビューと再整備（役割分担、支援スキーム等を含む）	・三支部協会及び都道府県協会との連携体制レビュープロジェクトの立ち上げ ・三支部ラグビー協会　連携強化 ・定期会議の開催（月次会議） ・総会の開催（年２回） ・JRFU・支部業務研修 ・都道府県ラグビー協会　連携強化 ・定期会議の開催（オンライン会議/適時） ・総会の開催（集合型会議/年１回） ・基金、助成金等　申請支援強化 ・基金、助成金、交付金等の公募情報集約と共有	・支部協会事務員及び事務局長レベルとの定期会議を実施し情報共有と課題への対応を検討し実行した ・三支部のガバナンス強化をメインとしたプロジェクトを立ち上げ、協議を開始した ・全国理事長会議を開催、来年度以降の定期開催方針を確認した ・各担当部門の助成金の申請をサポートする体制を整備し、コロナ対策に関連した助成金申請を実施した

	・申請に関する業務支援 ・受給・受託からの運用モニタリングと報告業務支援 ・三支部協会・都道府県協会支援部門（ラグビーファミリー支援部門（仮））設置 ・三支部・都道府県協会　事業活動の支援（情報共有、ナレッジ提供等） ・普及育成、事業、広報活動の支援 ・基金、助成金等の申請支援 ・その他　地域ラグビー普及活動に関する業務支援	
3.Regional Development Officer（RDO）の RWC2019 開催都道府県への配置	・RDO の育成と配置	・追加配置を行った上で、各地区の関連委員会へ説明会を開催した。今後も RDO の役割と地域連携の強化等について協議を継続する
4.スポーツマネジメント人材育成のためのプログラムの導入	・検討 PT の立ち上げ ・フィージビリティスタディの実施	・分科会を立ち上げ、方向性を確認した ・RDO が外部のスポーツマネジメントコースを受講し、その内容をレビューした。また、NPO を支援する組織と連携し、RDO の研修を実施、今後の地域展開についてレビューした
5.JRFU の規程・制度の整備/三支部との規定の統一化	・前年度までに整備した規程のレビューと修正対応 ・三支部、都道府県協会の規程・制度、事業計画/報告の集約 ・規程・制度、事業計画/報告の状況確認三支部の状況調査	・内部監査規程、マッチオフィシャルに関する規程、役員等候補者選考に関する規程、登録者見舞金規程、常勤役員の報酬並びに役員及び評議員の費用に関する規程について、改定を行った

6.ガバナンスコード対応の推進	・理事会改選による外部・女性理事割合の見直し ・上記以外の形式要件完備	・理事改選により目標は達成した
7.アニュアルレポート発行等による協会の方針や実績の積極的な発信	・アニュアルレポートの発行（日英）と発信 ・レビューによる内容改善	・日本語版を発行し、必要なレビューを実施し、次年度に向けた課題を確認した
8.業務効率化/改善のための仕組みの確立	・職員アンケートの実施と改善計画の策定と進捗レビュー ・役員へのアンケート実施	・前回アンケートのレビューを実施、次回アンケートは来年度行うこととした
9.人材の採用と育成に関する計画（人事戦略）の策定と遂行	・人事戦略の策定と遂行 ・上記のレビューと改善	・組織刷新に関わるプロジェクトを立ち上げて継続的に取り組んだ。最終的な人材戦略は 2022 年度上期に完成予定である
10.国際戦略検討のための会議体の設置	・国際戦略会議の立ち上げと位置づけ、テーマの明確化 ・継続的な会議の開催による国際戦略方針の策定と共有 ・国際大会招致に対する意思決定へのサポート ・次期 WR 役員選に向けた方針の検討	・コロナ禍において状況が不透明であったが、主に WR 等からの情報収集を行った。RWC 再招致に向け戦略検討は継続する
11.国際人材育成のための教育の実施	・JOC 国際人養成講座への参加 ・海外ユニオンでの研修等の検討	・同講座に職員 2 名参加し終了した ・IF 派遣事業について情報取集を行った ・利用促進のため留学支援制度・教育支援制度を整備し、職員への周知を図った
12.戦略的な様々なラグビー国際大会の継続的開催	・SWS 次期テンダー情報収集 ・アジア SS 開催検討・意思決定 ・東京 2020 運営サポート	・コロナ禍において状況が不透明であったが、WR、AR 等からの情報収集を行った ・東京 2020 のサポートは完遂

アクションプラン２　コミュニケーションの強化　【COO/広報部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.各種取り組みに関するコミュニケーション計画の策定および成果のレビューの徹底	・女子選手のメディア露出施策に重点を置き、女子の認知向上を実現・インテグリティ推進に取り組み、ガバナンス強化に貢献	・女性活躍推進施策を展開すると共に、機関誌や SNS、メディアブリーフィング等コミュニケーションツールを積極的に活用した
2.英語によるメディア対応・情報発信の拡充	・定期的な英語リリース配信の開始 ・英語 HP の課題整理、来期に向けた予算化	・英語配信、海外メディア対応を定例化、英語 HP の課題整理を実施した
3.デジタル専門チームの編成、効果測定の強化	・現状の課題整理、来期に向けた予算化	・デジタルと広報の領域整理については、来年度の組織改正にて対応する
4.外部メディアへの継続的な取材機会の提供	・写真・動画素材提供の拡充 ・メディアツアーの実施	・コロナ禍のためメディアツアーは見送り、素材提供については AWS システムを構築した

アクションプラン３　システム・データ活用の最大化　【CEO/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	実績
1.基盤システム構築	・人的データベース構築	・顧客ID統合に向けて、パートナー選定、基礎調査を開始した
2.データ活用施策の検討	・協会内の各種業務システム上のインプット/アウトプット仕様にて検討	・顧客データベース活用施策として、RFID登録者のデータ解析とアクション計画を策定した
3.活用新領域での活動	・カンファレンス等への参加 ・協会内の各種業務システムについて意見収集	・JRFU 内で発生しているシステム関連の支出状況の調査を行った

目標２　経営の安定化を図り、未来への投資を拡充させるための財務基盤を確保する

アクションプラン４　既存事業の価値最大化と収益機会の多様化　【CMO/マーケティング部門・メディア事業部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.マーケティング推進のための体制の強化	・ウィズコロナを見据えたマーケティング計画に着手 ・関係団体や支部協会との協業によるセールスパワーのアップ ・広告代理店との連携強化によるセールス活動の拡充を図る ・既存協賛社とのリレーションの強化によるパートナーシップ作りを目指す	・リーグワンセールス、グラスルーツプログラム等に取り組んだ ・JAPAN RUGBY STUDY SESSION やラグビー日本代表パートナーMTG を開催、協賛社等とのリレーション強化を図った
2. 2020 年度以降の新設マーケティングプログラムによる、スポンサー階層の拡大と収入の最大化（日本代表スポンサー）	・ウィズコロナにおけるセールス方法の工夫と改善（初年度）	・コロナ禍という状況において、新規スポンサーの獲得に向けて、新たなスポンサー獲得に向けて、セールス方法の工夫と改善を行った
3.スポンサーニーズを反映した大会関連プログラムや企画開発によるセールスの向上（大会スポンサー）	・ウィズコロナにおける大会スポンサーの確保、セールス方法の工夫、改善（初年度）	・女子ラグビーのプラットフォーム立案、全国高校大会のライブ配信、トンガ支援のチャリティマッチ等の整備・準備を行った
4.日本代表戦を中心とした地上波放送本数の増加、にわかファン層への視聴機会の継続、パブリックビューイングの拡大による	・ウィズコロナにおける新規パートナーの確保、既存セールスの工夫、改善（初年度） ・格式ある British and Irish Lions との日本代表戦を中心に、地上波放送本数の増加による、新規ファン層への	・国際試合等について、放送枠確保に向けて、各社との調整・交渉を実施した ・放送・配信業界の環境変化に対応し新規のパートナーシップ構築に向けて取り組んだ

体験型視聴機会の推進（放送・配信権）	視聴機会創出と拡大 ・放送・配信業界の環境変化に対応し、視聴ターゲットに即した新規パートナーシップ構築や、更なる関係の強化 ・日本代表戦を中心としたパブリックビューイングの拡大による、ライブ体験型視聴機会を推進	・コロナ禍の状況により、パブリックビューイングの実施は見送り、来年度以降に向けてガイドラインを策定した
5.にわかファン層の定着を狙ったマーチャンダイジング事業と、ライセンス事務局の機能強化（マーチャンダイジング）	・公式マスコット「レンジ―」を活用し、新規ファン層の定着を狙ったマーチャンダイジング展開	・代表戦等においてはメモリアルアイテム MD を展開した ・リアルイベントにおいては、レンジーを最大限活用した
6.グラスルーツプログラムの拡大、自治体ワンチームとの全国横断プログラム等の商品化（新設プロジェクト）	・RWC2019 の成功に伴う、新規プログラムの開発（大学ラグビー再生プログラム、自治体ワンチームとの普及育成包括プログラム、新規プロパティの開発等	・グラスルーツプログラムのローンチに向けた準備を行った。大学コマーシャル企画のスタートアッププログラムは即日応募数に達した
7.戦略コミュニケーションの強化による、F1 や Teen 層への積極的なアプローチ、仕掛けの創出（ファンエンゲージメント）	・「戦略コミュニケーション」チームの活性化による、ファン視点での SNS 発信の更なる強化	・Brave Blossoms を始め代表ブランディングの強化を実施により、公式 Twitter と JRTV のフォロアー数は着実に増加した

アクションプラン５　既存意識を超えた新たな分野への挑戦　【COO/大会運営部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.太陽生命 WSS 収支改善	・五輪をフックとした露出ニーズの取り込み ・スポンサーニーズの明確化 ・大会ポテンシャル再調査	・リニューアルプロジェクトを推進、今後複数年に渡る計画策定を行った
2.女子全国大会の収益獲得	・運営体制の見直し ・大会ポテンシャル再調査	・収益化に向けた運営体制を策定したが、辞退チームもあり１試合しか行えなかった
3.男子セブンズ国際大会招致/男子国内大会再整備	・五輪をフックとした選手に焦点を当てた施策に特化 ・強化側との認識合わせを踏まえた国内大会フォーマットの検討	・国内フォーマットについては、理事会における協議事項として検討を継続している
4.大会以外の収益事業構築	・前年度のリモート観戦企画を踏まえ、日本代表戦をメインとしたコンテンツ価値強化	・各種リモート企画の他、試合会場における新たな取り組み等を行った

アクションプラン６　非イベント収入機会の確保と強化　【COS/業務推進部門・総務部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.JRFU 基金制度の発展	・制度の見直し、新制度の策定 対価、特典の検討、イベント企画の企画立案、寄付金用途の整備、JRFU メンバーズクラブ・スクラムジャパンプログラムとの連携調整 ・管理業務・拡充計画・ホームページ管理	・税額控除の導入、遺贈寄付相談窓口の設置、登録者へのメール配信等の取り組みを行ったが、最終的な寄寄付/寄付額共に前年度を大きく下回った
2.自治体ワンチームとの連携	・協会内の要件・要望に関する集約・渉外調整（国・自治体への要件・要望に関する集約・渉外調整） ・ラグビー関連の助成事業（委託事業、助成金・交付金事業）の計画整理、準備、申請、運用、報告 ・RWC 再招致に向けた計画化と基盤整備 ・普及育成活動連携（地域普及担当者 RDO との連絡会議の設置） ・自治体連携協議会連携（5-6 月）、自治体連携協議会総会（5-6 月） ・東京 2020 自治体連携（7-8 月）（日本代表戦パブリックビューイング、オリパライベントと要調整） ・RWC2021/RWC2023/テストマッチ自治体連携（9-11 月）RWC2019　2 周年 SNS 連携企画、RWC2023　2Y to GO 機運醸成企画（情報共有、SNS 連携、動画配信等）日本代表戦パブリックビューイング ・新リーグ設立自治体連携（1 月）トップリーグ/新リー	・補助金については 10/25 に内定通知を受け、11/12 交付決定、確定通知を受領した ・自治体連携協議会は 1/15、37 自治体が出席のもと開催された ・日本代表戦における自治体主催パブリックビューイング計画については、実施に向け自治体との意見調整を行った

	グ機運醸成企画（情報共有、SNS 連携、動画配信等） ・自治体ワンチーム ホームページ 連携（普及育成活動、ラグビーによるまちづくり事例の掲載、日本ラグビー協会展開プロモーションの連携掲載（SNS、YouTube チャンネル）） ・ラグビープロモーション連携、オンラインツール（報告書、告知、イベントプロモーション等、ペーパーツール（リーフレット、イラスト、ロゴマーク活用等）） ・普及育成活動連携（普及活動重点化地域に対する普及、ラグビー教室への講師派遣事業）	
3.統合データベースの活用	・統合データベースの活用検討（基盤システムによる選手、関係者、ファン等の連携するデータ活用） ・統合データベースの活用（ラグビーファン ID 運用支援、データベース・システム構築検討、ラグビー支援者（協賛、協力、寄付行為、VIP 他）名簿管理）	・開発計画が修正され、統合データベースの活用は未運用となっている
4.普及関連資金管理改善・効率化	・事業収入および担当部署の整理/支部協会・都道府県協会の事業内容の調査	・協賛プログラムについて継続的に協議を行っている
5.普及関連事業協賛確保	・普及育成事業（既存・新規）における収益事業の整理と改善/新スポンサーの獲得	・支部への説明等、普及育成の協賛プログラムの整備を行った

6.スクラムジャパンプロジェクト（SJP）活動の積極的推進	・SJP の社会的価値の整理と事業の整理と情報発信および、賛助会員の拡大	・新規会員獲得のための取り組みを継続的に実施した
7.自治体・SJP 参加企業との連携事業	・都道府県協会の普及育成における体制整備と事業の洗い出し	・SJP を活用した自治体・都道府県協会を繋ぐイベントについて検討を行った
8.補助金・助成金活用のための体制整備	・中央省庁の補助金・助成金に対する協会体制の整備（既存、新規事業の整理と確保）	・2020 年度、2021 年度分についてスポーツ庁と調整を行った
9.メンバーズクラブ会員制度刷新	・新会員制度の仕組みの確定 ・メンバーズクラブ：目標会員数 50,000 人	・システムデータ連携を開始、SAKURA CLUB 会員向けセールスを行った
10.寄付金税額控除対象法人の申請検討	・寄付実績の確認 ・申請フローの確認	・3Q までに申請・対応を完了した

アクションプラン７　財務計画・管理システムの強化　【CFO/財務部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.主要部門別中長期予算の策定・見直し	・中期計画に基づく部門別中期予算の作成	・2022 年度単年度予算と合わせて、2024 年度までの中期予算を策定した
2.予算管理会計システムの改善	・既存システムのフル活用 ・運用の改善 ・人材・人員確保	・請求書発行依頼、稟議システムについてシステム化を行った
3.資産運用・規定見直し	・運用計画提案 ・規定の見直し検討	・資産運用に関わる規程の改定案を策定した

目標３　安全で、誠実なラグビーを通じてラグビー憲章を守る

アクションプラン８　ラグビーへの信頼を維持・確保　【COS/インテグリティ推進部門・安全対策委員会】

事業計画	具体的施策	実績
1.コンプライアンス体制の強化	・都道府県協会の体制整備	・定期的にコンプライアンス委員会を開催し、リーグワンの体制を整備した
2.インテグリティ/コンプライアンス研修の改善・強化(含. ラグビー憲章)	・研修コンテンツの拡充	・ラグビー憲章動画を作成し、コーチカンファレンスや安全インテグリティ推進講習会で活用した
3.インテグリティ相談窓口の改善	・匿名対応整備	・各種講習会等での周知を行うと共に、匿名対応に向けた準備・調整を行った
4.適切な処分実施	・処分のための体制整備、規程整備	・定期的に規律委員会を開催し、リーグワンとの規程整備等の課題整理を行った
5.フェアプレーに関する発信、教育の推進	・フェアプレー徹底の方針策定	・ラグビースクール等におけるフェアプレー教育の実施に向けた検討を行った
6.社会貢献活動、SDGs の推進・評価	・インテグリティ追及のための SDGs 取り組み方針策定、アクション実施	・JRFU としての D&I ステートメントを取りまとめ公表した
7.KPI 評価プロセスの確立	・評価制度の確立	・重症事故及び脳振盪への対応は実施したが、評価制度の確立までは至らず
8.安全管理体制の再整備	・安全管理プロセスの整備（重症対応）	・重症事故等の発生状況を取りまとめ、安全対策委員会で共有、対策を協議した
9.安全に関する情報提供の改善	・安全に関する情報提供の再設計（現行スキーム）	・傷害見舞金規程を改定、運用を開始した

2021年度事業報告

領域II　強　化

目標４　代表チームを支える環境を整備し、すべてのラグビー日本代表を戦略的に強化する

目標４　代表チームを支える環境を整備し、すべてのラグビー日本代表を戦略的に強化する

アクションプラン９　選手の環境と価値を守る　【CRO/代表強化部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.ウェルフェアについて協議する体制づくり	・ワーキンググループの発足及び体制づくり/JRFU のウェルフェアに関する考え方の整理	・ワーキンググループにおいて HP 掲載情報の整理と今後の進め方について検討した
2.WR への関与拡大、国際カレンダーへの影響力やルール改定への関与	・WR 理事会や委員会への働きかけ	・必要な情報共有に努めた
3.契約や人事専門部門の設置、選手会との向き合い、アスリート委員会の整備と活用	・専門部門/担当者の設置と新リーグとの連携した国内ルールの整備 ・アスリート委員会の再整備	・アスリート委員会を開催し、課題整理等を行った
4.システム整備、選手データの入力義務化、個人情報管理の推進	・JRFU の基盤システムの整備 ・SCOT の整備	・男子 15 人制代表チームにおいて SCOT の運用を開始した
5.ラグビー界全体の環境整備のため、学校や多様な競技関連団体との連携体制の整備	・環境整備の検討と体制づくり	・ユース委員会を設置し、課題整理等に着手した
6.教育コンテンツの充実と継続した教育による指導者、選手及び関係者の理解の深化、インテグリティ事案発生時の原因の把握	・教育コンテンツの充実、定期的な研修と新しいアプローチの検討	・要件整理を行うと共に、JSC による調査結果をチームと共有した

アクションプラン 10　多くの関係者・ファンが代表を支える環境の提供　【CMO/プロモーション部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.広報領域	・発信力の強化とデジタルプラットフォームの拡充	・デジタルと広報領域整理については、来年度の組織改編にて対応することとした
2.マーケティング領域	・RWC2019 で獲得した新規（にわか）ファン層の定着を念頭に、SNS を軸とした戦略コミュニケーションやデジタルマーケティングを強化し、日本ラグビーのブランディングを推進	・オウンドメディアと SNS の棲み分けを行うことで効率的な情報発信が可能となった
3.大会運営領域	・競技運営の世界基準化	・女子について、複数年の大会計画の策定に至った
4.国際領域	・Tier1 を中心とした強豪国との魅力あるマッチメイクを目指すとともに新規国際大会の招致を含めた国際的地位の拡大を目指す	・アドバイザーと連携し、継続的な情報収集を実施した
5.代表強化部門	・年度活動計画の共有 ・ブランドアクティビティカレンダーの作成	・活動の連携は実施できたが、情報確定が遅れ、計画は後ろ倒しとなった
6.プロモーション領域	・RFID を活用した情報展開の充実（ID 数：23 万人） ・メンバーズクラブ：目標会員数 50,000 人 ・MD 関連収入：800 万 ・代表戦：平均単価 8,500 円以上、集客 3 万人以上/試合 ※Tier 1 想定	・3 月末時点で約 30,000 名の会員獲得ができた ・ランドセルや文房具等、新サプライヤー、アイテムを開発、代表戦 MD グッズの開発にも着手した

アクションプラン 11　ハイパフォーマンス（HP）プログラムのさらなる強化　【CRO/技術部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.HP 支援のための組織体制の整備	・管理者および専門官の人員確保	・組織体制を確立するため、ユース委員会を立ち上げた。LTPD（長期的なプレーヤー強化）についてもスタッフを配置、一貫指導体制構築に向けて取り組んだ
2.強化と普及育成の連携体制	・技術部門の体制整備と普及育成との連携整理 ・HP を代表強化部門、デベロップメントを普及育成部門および技術部門が担い、パスウェイの整備を進める ・情報の集積・発信方法の検討と、主観的・客観的分析方法を検討	・4 つの領域（競技規則、コーチング、安全対策、普及育成環境）の明確化を図り、連携体制を整備、多角的な日本ラグビーの検討（情報の集積・分析、情報発信）を行った
3.スタッフ啓発のための体制づくり	・スタッフ育成プログラムの検討 ・評価システム構築と運用 ・専門的知見を有したスタッフの配置	・AMS（WR プラットフォーム）を導入、マッチオフィシャルから使用した。指導者のフィードバックシステムについては、代表アンダーカテゴリーからの導入を検討している

2021年度事業報告

領域Ⅲ　普及・育成

目標５　誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会をつくる

目標５　誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会をつくる

アクションプラン 12　RWC2019 レガシーと普及環境の整備　【CRO/普及育成部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.指導者・レフリーの質量向上	・スタートコーチ、S 級、A 級、B 級、C 級コーチ資格講習会の開催 ・ブラッシュアップ研修会 ・コーチカンファレンスの開催 ・コーチング教材作成 ・レフリー資格講習会	・スタートコーチは年間 1320 名が受講した ・コーチ資格講習会は、S 級 21 名、A 級 155 名、B 級 133 名が受講した ・2022 年度に向けた C 級コーチエデュケーター養成講習会では 97 名を認定した ・オンラインを活用したコーチカンファレンスを開催し、S&C、タグラグビー、ミニラグビーなどテーマ別の講習会も実施した ・スタートレフリー受講者 996 名が登録された
2.活動拠点の整備	・タスクフォースによる調査等	・タスクフォースで協議し、大会出場規定の見直しを高体連へ提案した。
3.普及育成の財政基盤づくり	・スクラムジャパンプログラム ・アクションプラン６と協働	・スクラムジャパンプログラムとして、継続・新規の賛助会員を獲得し、地域における 8 つの助成支援を行った
4.データベース基盤の整備とデータ活用	・コーチ/レフリーデータベースの整備と活用 ・アクションプラン３と協働	・普及育成関連のデータ集積やレフリーデータの運営管理を行った

5.コミュニケーション（情報伝達・広報活動）の促進	・普及育成に関する情報発信の整理	・現状の課題を洗い出した上で、普及育成関連のウェブサイトをリニューアルした
6.地域協会との連携強化（地域協会の体制強化と、自走できる仕組み作り）	・普及育成フォーラム（全国・地域） ・全国ラグビー一斉体験会 ・放課後ラグビープロジェクト	・普及育成戦略に関するオンデマンド動画を作成し、全国および三支部協会ごとに、普及育成会議をオンラインで開催した ・全国ラグビー一斉体験会を開催し、体験会後に 112 チームに対して、493 人の新規入会者があった ・放課後ラグビープロジェクトを全国 5 会場で実施した
7.マネジメント人材養成と配置	・Regional Development Officer（RDO）の育成と配置	・新規 RDO を 3 名配置し、エリアごとの活動を強化・推進している
8.新リーグとの協働	・アクションプラン 13 と協働	・リーグの普及育成担当者と共に普及育成に関わる方針の取りまとめを行った
9.スクール（タグ・ミニ・ジュニア）ラグビーの拡充	・各種全国大会の開催 ・地域交流大会の開催 ・タスクフォースによるルール・安全・指導の見直し	・その時々のコロナの状況により開催・中止を判断し、中止せざるを得なかった大会については、代替企画等の検討を行った ・長期的な普及育成方針を部門横断で検討する会議体を設置して定期的に協議した
10.中高生の普及育成基盤改革	・ベースキャンプ活動	・ベースキャンプ活動は、全国で 29 チーム、2,233 名が参加した
11.プレーヤーウェルフェア（心と身体の安心・安全）	・アクションプラン 8/9 と協働	・研修会やワークショップでの情報収集を行った

12.女子ラグビーの普及育成基盤づくり	・女子の普及の基盤の構築	・女子ラグビーを考えるオンラインサロンを計 4 回開催した
13.ラグビー参画者の拡大（ラグビーを始めるきっかけと、続けられる環境の整備）	・タグラグビー推進 ・生涯ラグビー ・成年（クラブ/マスターズ）	・タグラグビーに関するタスクフォースを設置し、参画者拡大に向けてタグラグビーの多様なあり方について協議した ・クラブや大会運営者へヒアリングを行った
14.教育プログラムの整備	・タグラグビー実施率調査 ・ラグビー体験授業 ・教育プログラムの多様化 ・免許状更新講習会 ・国際交流プログラム	・RWC12 開催都市を対象に、小学校でのタグラグビー実施率調査を実施した ・教員向けの免許状更新講習会の開催をおこなった ・ラグビー エンパワーメント プログラムを開催し、女子高校生 22 名が修了した
15.障がい者とラグビーをつなぐ	・障がい者へのラグビー推進	・サイレントラグビーを企画したが、コロナの影響により年度内の実施を断念した
16.国際協力プログラムの推進	・アジアンスクラムプロジェクト ・JICA 連携事業 ・JENESYS ・国際協力人材養成	・アジアンスクラムプロジェクトとして、インドネシア協会とレフリーワークショップを開催した ・JICA ラグビー隊員の募集・派遣の再開に向けて、プロモーション映像の制作を行った ・国際協力人材養成を目的に、東ティモールとの JENESYS プログラムや、ジェンダーやセーフガーディングをテーマにしたウェビナーを開催した

2021年度事業報告

領域Ⅳ　リーグ改革

目標６　ラグビーファンが熱狂する舞台をつくる

目標６　ラグビーファンが熱狂する舞台をつくる

アクションプラン 13　ラグビーファンが熱狂する舞台をつくる　【CEO/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	実績
1.事業性の追求	・チケッティング、大会運営、ガイドライン等の移行 ・新リーグプロモーションブランディング ・基盤システムとの連携	・ラグビーサービス分野における委託業務（マッチオフィシャル、メディカル、ジュディシャル、サイティング、マッチコミッショナー）を中心に 115 試合（うち 22 試合中止）の業務提供を実施した
2.社会性の向上	・ホスト＆ビジターでの興行実施	・取り組み内容の検討に留まる。必要なレビューを実施し、来年度の課題としたい
3.人と技術を育てる	・連携方法の検討、プランニング	・取り組み内容の検討に留まる。必要なレビューを実施し、来年度の課題としたい

2021年度事業報告

領域Ⅴ　社会連携

目標７　ラグビーのチカラを使って、社会の役に立ち、世界を守る

目標８　ラグビーが起点となって日本に新しい産業をうみだす

目標 7　ラグビーのチカラを使って、社会の役に立ち、世界を守る

アクションプラン 14　社会連携、国際連携のための体制確立　【COS/国際部門・普及育成部門】

事業計画	具体的施策	実績
1.SDGs,CSR 活動の継続実施のための体制確保	・ビジョン作り ・2024 年までの戦略計画の策定 ・現状の認識	・D&I ステートメントを策定・公表した ・SDGs に関連する既存事業を精査し、情報発信に向け体制準備を行った
2.国際貢献活動の継続と強化	・ビジョン作り ・既存の活動の整理	・国際貢献活動、事業活動の整理を実施、情報発信は今後の課題である
3.JOC 等の関連団体や行政機関との連携	・ビジョン作り ・連携を取りながら、ラグビーを通じた、SDGs 活動についての機会を探す ・ステークホルダーの洗い出し	・事業活動を整理、今後は JOC やスポーツ庁、IF 等と連携が図られている活動について情報発信していきたい

目標８　ラグビーが起点となって日本に新しい産業をうみだす

アクションプラン 15　有形、無形のラグビー資産を社会や経済活動へ結びつける　【CEO/戦略計画推進室】

事業計画	具体的施策	実績
1.社会が共感するラグビーの価値観やノウハウをパッケージ化またはカテゴライズしたコンテンツの活用	・推進部門の設置もしくは PT の立ち上げ ・上記による F/S ・オープンイノベーション戦略によるコンテンツ開発のための計画策定	・デジタルコンテンツ提供のプラットフォーム化、ファンエンゲージメント事業、ベニュー運営、人材とデータ活用等について、パートナー企業との調整を進めた
2.統合データベースをもとにしたビッグデータ活用	・基盤システムへのデータ移行 ・上記Ｉの対象プログラムとして並行して検討	・DX 推進プロジェクトとして取り組んだ
3.強化現場でのノウハウ(IT 活用を含む)の他競技等への展開	・パートナーとの契約合意、共同開発開始	・パートナー企業との間で、連携内容を精査しつつ、細部検討を行った
4.国際交流活動ノウハウの展開方法の検討	・国際交流事業の企業との提携による事業化の検討	・参考事例を得るべく、海外NTC等について調査を実施した
5.ラグビーミュージアム事業検討への積極的関与（ex 体験型等）	・ミュージアム事業計画への情報収集と参画可否調査	・情報収集を行い、必要な対応策を講じた
6.新規社会連携事業検討のための体制整備	・上記の他、JRFU の持つノウハウやコンテンツを活用した新規事業や連携モデルを検討する体制の検討	・複数の新規事業（候補案件も含む）について、事業及び収支計画を策定、具体的なアクションプランの策定等を行った

活動報告

競技運営委員会（大会運営部門）

トップリーグ部門・ジャパンラグビーリーグワン

代表強化部門　男子 15 人制

代表強化部門　男子 7 人制

代表強化部門　女子 15 人制

代表強化部門　女子 7 人制

競技運営委員会（大会運営部門）

各種大会の実施要項の策定と競技運営、会場運営の計画設計を行い、円滑な大会運営を行うと同時に競技者のみならず、内外ステークホルダー、ファンの皆様へのサービス提供を行った

1.大会運営部門

(1)国際試合（男子 15 人制日本代表戦）

6 月 12 日　リポビタン D チャレンジカップ 2021

日本代表 32 – 17 サンウルブズ（静岡、18,434 名）

10 月 23 日　リポビタン D チャレンジカップ 2021

日本代表 23 – 32 オーストラリア代表 （大分、17,004 名）

(2)太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2021

第 1 戦　東京大会（5 月 1～2 日、秩父宮）

優勝：チャレンジチーム

第 2 戦　静岡大会（5 月 15～16 日、エコパ）

優勝：MIE PEARLS

第 3 戦　熊谷大会（6 月 5～6 日、熊谷）

優勝：チャレンジチーム

第 4 戦　鈴鹿大会（6 月 26～27 日、鈴鹿）

優勝：東京山九フェニックス

年間優勝：ながとブルーエンジェルス

(3)3.第 58 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会

14 チームによるトーナメント方式（11 月 21～1 月 9 日、全 14 試合）

優勝：帝京大学、準優勝：明治大学

(4)第 72 回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会

14 チームによるトーナメント方式（1 月 2～6 日、全 7 試合、瑞穂）

優勝：追手門学院大学

2.国体部門

(1)第 76 回三重国民体育大会（三重とこわか国体）中止

(2)第 77 回大会以降の開催県・開催地・県協会、および日本スポーツ協会と打合せを実施（7 月、第 82 回大会開催地視察、菅平）

3.大学大会部門

大学ラグビー全国大会の実施要項の協議、並びに大会発展のための施策検討を行う部門会を開催

4.社会人大会部門

(1)支部協会主催、各社会人リーグの普及・発展・強化のための施施策検討・実施

(2)社会人リーグ交流戦実施の検討

(3)リーグワン創設に伴う、リーグと支部協会を含む JRFU との連携（新規参入等の協議）

5.クラブ大会部門

(1)第 29 回全国クラブラグビーフットボール大会（1 月 9～2 月 20 日、熊谷、瑞穂、鶴見緑地、本城）

前回大会決勝戦が同点により関東代表・関西代表両チーム優勝となったため、前年優勝枠を 1 枠増やし 13 チームで開催した。参加は 13 チーム（関東 5、関西 5、九州 3）但し、大会開催期間において、3 チームが出場を辞退した。優勝ハーキュリーズ（東京都)、準優勝愛知教員クラブ(愛知県)

(2)学生クラブ東西交流フェスティバル（9 月 3～5 日、菅平）中止

(3)第 20 回東西学生クラブ対抗試合（12 月 19 日、兵庫）

山梨学院大学グリーンイーグルス 52－0 関西学院大学上ヶ原

(4)クラブユース交流試合（兼クラブユース U19）中止

(5)部門会（9 月 11 日秩父宮、2 月 5 日愛知）

各大会運営・日程・コロナ禍大会概要協議並びに三地域管下クラブ環境の情報交換等

6.高校大会部門

高校大会・研修会

(1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 2021（4 月 28～5 月 5 日、宗像）中止

(2)第 8 回全国高校 7 人制ラグビーフットボール大会（7 月 16～19 日、菅平）

カップ決勝　東海大仰星 17－14 国学院栃木

(3)第 17 回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会（7 月 29～8 月 1 日、菅平）中止

(4)第 52 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会（1 月 4～9 日、神戸）

決勝　奈良工業高専 76－17 久留米工業高専

(5)第 101 回全国高等学校ラグビーフットボール大会（12 月 27～1 月 8 日、花園）

決勝　東海大大阪仰星 36－5 国学院栃木

(6)第 14 回U18 合同チーム東西対抗（1 月 8 日、花園）中止

(7)第 46 回高等学校指導者研修会（1 月 9～11 日、東京）講師 3 名と受講者 18 名が参加した

(8)第 23 回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会（3 月 24～31 日、熊谷）　優勝報徳学園、準優勝東福岡（決勝戦は中止）

高校女子大会

(1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 2021（4 月 28～29 日、宗像）中止

(2)第 11 回全国高等学校女子合同チームラグビー大会（7 月 29～8 月 1 日、菅平）中止

(3)第 4 回全国U18 女子セブンズラグビーフットボール大会（10 月 22～24 日、熊谷）

カップ優勝関東学院六浦、プレート優勝追手門学院、ボウル優勝開志国際、大会 MVP 向來桜子選手（関東学院六浦）

(4)U18 花園女子ラグビー（12 月 27 日、花園）中止

トップリーグ部門

トップリーグは 2021 年 4 月から 5 月までリーグ戦、トーナメントの 35 試合を計画、2 試合が中止となり最終的に 33 試合が開催された。（うち、2 試合は無観客開催）コロナの影響に伴い、各地で行動制限がなされたこと等により、1 試合あたり観客動員は平均 3,427 名であった。（シーズン通した全 73 試合の総観客動員は 250,002 名、1 試合あたり 3,425 名）

活動実績

(1)4 月　リーグ戦

(2) 4 ～5 月　日本選手権（兼）トップリーグプレーオフトーナメント
優勝パナソニックワイルドナイツ、準優勝サントリーサンゴリアス、
第 3 位　クボタスピアーズ、トヨタ自動車ヴェルブリッツ

ジャパンラグビーリーグワン

2022 年 1 月の開幕に向けて、主管権が JRFU から JRLO に委譲された。リーグワンは、ディビジョン 1　12 チーム、ディビジョン 2　6 チーム、ディビジョン 3　6 チームと、計 24 チームの編成で開幕を迎えることとなった

活動実績

(1)6 月以降　定款および関連規程の制定・改廃定、理事・監事選任、事業計画および予算策定を行った

(2)7 月　ディビジョン分け決定、チーム名称、およびエンブレム決定、新リーグ 名称 ・ロゴ 決定

(3)9 月　法人名変更

(4)10 月　大会概要発表、リーグパートナー決定

(5)1 月　新リーグ開幕（5 月末閉幕）

代表強化部門　男子 15 人制

1.日本代表

(1)プレマッチ

6 月 12 日　日本代表 32－17 サンウルブズ（静岡）

(2)テストマッチ

6 月 26 日　日本代表 10－28 ブリティッシュ＆アイリッシュ・ライオンズ（スコットランド）

7 月 3 日　日本代表 31－39 アイルランド代表（アイルランド）

10 月 23 日　日本代表 23– 32 オーストラリア代表（大分）

11 月 6 日　日本代表 5－60 アイルランド代表（アイルランド）

11 月 13 日　日本代表 38－25 ルトガル代表（ポルトガル）

11 月 20 日　日本代表 20－29 スコットランド代表（スコットランド）

(3)キャンプ

5 月 25～6 月 7 日　別府

6 月 8～15 日　静岡

9 月 13～17 日　菅平リハビリ合宿

9 月 20～24 日　菅平リハビリ合宿

9 月 29～10 月 15 日　宮崎

10 月 16～28 日　別府

(4)海外遠征

6 月 16～7 月 5 日　欧州遠征

10 月 29～11 月 22 日　欧州遠征

2.ジュニア・ジャパン

ワールドラグビー・パシフィックチャレンジ 2022（3 月、フィジー）中止

3.U20 日本代表

(1)チーム強化キャンプ（U20 2022 年度チーム編成に向けた育成キャンプ）　9 月または 10 月中止、12 月（関西）中止、1 月（関東）中止、2 月中旬　WR パシフィックチャレンジに向けた育成キャンプ　中止、3 月下旬　中止

(2)人材発掘キャンプ（高校生対象）中止

7 月 TID 発掘キャンプ（菅平）、12 月　TID 発掘キャンプ（京田辺）

(3)TID キャンプ

5 月 23 日、30 日、6 月 6 日、7 月 4 日、8 月 1 日、9 月 5 日、10 月 3 日、11 月 7 日、12 月 5 日（以上、オンライン）、12 月 27～30 日

代表強化部門　男子７人制

1.キャンプ

実施前に、スタッフ・選手ともにPCR検査を行った。4月6〜9日（府中）、4月17〜24日（府中）、5月6〜11日（府中）、5月17〜29日（宮崎）、6月6〜10日（府中他）、6月14〜21日（府中）、6月25〜7月5日（定山渓）、7月11〜8月1日（府中）、9月25〜10月7日（日田）、10月18〜27日（読谷村）、11月8〜10日（成田/市原）、11月13〜20日（福岡）、12月18〜20日（成田）、12月21〜23日（府中）、1月7〜14日（鹿児島）、1月20〜24日（福岡）、2月1〜5日（成田）、2月20〜26日（別府）、3月9〜17日（別府）、3月27〜4月6日（読谷村）

2.試合・大会

(1)Emirates Invitational 7s　WEEK1　結果4位

4月2日　JAPAN SELECT21－45 カナダ
JAPAN SELECT14－ 31 アルゼンチン
JAPAN SELECT19－12 ウガンダ

4月3日　カップトーナメント準々決勝
JAPAN SELECT15－12 スペイン
カップトーナメント準決勝
JAPAN SELECT 5 －24 アルゼンチン
3位決定戦
JAPAN SELECT14－31 ケニア

(2)Emirates Invitational 7s　WEEK2　結果7位

4月8日　JAPAN SELECT21－26 フランス
JAPAN SELECT10－28 アルゼンチン
JAPAN SELECT21－12 チリ

4月9日　カップトーナメント準々決勝
JAPAN SELECT12－29 カナダ
5位決定戦準決勝
JAPAN SELECT19－24 ウガンダ（延長戦）
7位決定戦
JAPAN SELECT26－14 スペイン

(3)第32回オリンピック競技大会（Tokyo2020）結果11位

7月26日　予選ラウンドプール戦
日本代表19－24 フィジー代表
日本代表0－34 英国代表

7月27日　予選ラウンドプール戦
日本代表12－34 カナダ代表
9-12位決定戦
日本代表7－21 ケニア代表

7月28日　11-12位決定戦
日本代表31－19 韓国代表

(4)Asia Rugby Sevens Series 2021 ドバイ大会　結果3位

11月19日　日本代表31－14 スリランカ代表
日本代表26－0 中国代表
日本代表27－19UAE 代表

11月20日　カップ準決勝
日本代表14－21韓国代表
3位決定戦
日本代表26－19中国代表

(5)World Rugby Sevens Series 2022　WEEK1　結果12位
11月26日　日本代表12－17英国代表
日本代表12－52南アフリカ代表
日本代表0－33アイルランド代表
11月27日　9位-12決定戦
日本代表0－35フランス代表
日本代表14－22カナダ代表

(6)World Rugby Sevens Series 2022　WEEK2　結果11位
12月3日　日本代表0－48南アフリカ代表
日本代表14－36英国代表
日本代表0－41アイルランド代表
12月4日　9-12位決定戦
日本代表7－31スペイン代表
日本代表21－12カナダ代表

(7)World Rugby Sevens Series 2022　マラガセブンズ　結果13位
1月21日　日本代表14－33アイルランド代表
日本代表0－42オーストラリア代表
日本代表0－29ドイツ代表
1月22日　9位決定戦
日本代表10－31スペイン代表
1月23日　13位決定戦
日本代表26－17ケニア代表
日本代表29－24ジャマイカ代表

(8)World Rugby Sevens Series 2022　セビリアセブンズ　結果11位
1月28日　日本代表10－28イングランド代表
1月29日　日本代表0－43フランス代表
日本代表26－5ウェールズ代表
1月30日　9位決定戦
日本代表24－19ジャマイカ代表
日本代表5－26スペイン代表

(9)7人制男子ユースアカデミー
合宿は自粛、オンライン等による遠隔指導を実施
4月10日、7月22日（オリンピック教育）、8月29日、9月19～20日、11月27～28日、2月26～27日

(10)男子シニアアカデミー
高校を卒業した2名を招集し、スタッフ・選手ともにPCR検査を行って、3月15～17日合宿を実施（別府）

代表強化部門　女子 15 人制

1.キャンプ

4 月 7～11 日（勝浦)、5 月オンラインセッション、6 月オンラインセッション、7 月 24～29 日（菅平)、8 月 23～27 日（釜石)、9 月 21～26 日（市原)、10 月 9～17 日（菅平)、10 月 26～30 日（菅平)、10 月 31～11 月 23 日（ヨーロッパ遠征 、オータムテストシリーズ 2021)、3 月 6～18 日（静岡）

2.テストマッチ

11 月 7 日　日本代表 5－23 ウェールズ代表（ウェールズ）
11 月 14 日　日本代表 12－36 スコットランド代表（スコットランド）
11 月 20 日　日本代表 12－15 アイルランド代表（アイルランド）

3.女子 15 人制 TID ユースチーム（大学生世代以下）活動

(1)TID ユースチーム オンラインセッション
10 月 27 日、11 月 10 日、24 日、12 月 8 日、22 日、1 月 5 日、19 日
(2)TID ユースチーム合宿
3 月 7～10 日（裾野）

代表強化部門　女子 7 人制

1.キャンプ

実施前に、スタッフ・選手ともに PCR 検査を行った。4 月 2～8 日（熊谷）、4 月 14～5 月 4 日（熊谷）、5 月 6～21 日（熊谷）、5 月 30～6 月 20 日（熊谷）、6 月 22～29 日（読谷村）、6 月 30～7 月 6 日（熊谷）、7 月 7～12 日（定山渓）、7 月 12～8 月 2 日（熊谷/府中）、9 月 25～9 月 29 日（熊谷）、10 月 5～11 日（熊谷）、10 月 16～25 日（和歌山）、11 月 2～10 日（読谷村）、12 月 8～11 日（熊谷）、12 月 18～23 日（熊谷）、1 月 5～11 日（熊谷）、1 月 19～27 日（熊谷）、2 月 5～10 日（熊谷）、2 月 18～25 日（日田）、3 月 6～13 日（読谷村）、3 月 22 ～29 日（鹿児島）

2.試合・大会

(1)Emirates Invitational 7s　WEEK1　結果 6 位
4 月 2 日　JAPAN SELECT19 －14 ケニア代表
JAPAN SELECT12－43USA 代表
JAPAN SELECT0－26 フランス代表#1
JAPAN SELECT19－31 ブラジル代表
4 月 3 日　JAPAN SELECT5－31 カナダ代表
JAPAN SELECT5―14 フランス代表#2

(2)Emirates Invitational 7s　WEEK 2　結果 5 位

4 月 8 日　　JAPAN SELECT14－24 ブラジル代表
JAPAN SELECT0－28 カナダ代表
JAPAN SELECT10－10 ケニア代表

4 月 9 日　　JAPAN SELECT0－31USA 代表
JAPAN SELECT5－43 フランス代表
5 位決定戦
JAPAN SELECT43 –0 ケニア代表

(3)第 32 回オリンピック競技大会（Tokyo2020）結果 12 位

7 月 29 日　予選ラウンドプール戦
日本代表 0－48 オーストラリア代表
日本代表 7－17 アメリカ代表

7 月 30 日　予選ラウンドプール戦
日本代表 0－29 中国代表
9-12 位決定戦
日本代表 17－21 ケニア代表

7 月 31 日　11-12 位決定戦
日本代表 12 –21 ブラジル代表

(4)Asia Rugby Sevens Series 2021 ドバイ大会　結果 1 位

これにより、RWC セブンズ 2022（9 月）の出場権を獲得した

11 月 19 日　　日本代表 21－7 カザフスタン代表
日本代表 17－5 タイ代表
日本代表 61－0 フィリピン代表

11 月 20 日　カップ準決勝
日本代表 29－0 香港代表
カップ決勝
日本代表 14－12 中国代表

(5)7 人制女子ユースアカデミー

合宿は自粛、オンライン等による遠隔指導を実施。7 月 22 日（オリンピック教育）、9 月 23 日、10 月 31 日、2 月 20 日、3 月 21 日

女子セブンズジュニア強化合宿　4 月 14～16 日（別府）、12 月 12～15 日（別府）

専門委員会・諮問委員会

財務委員会（財務部門）

普及育成委員会（普及育成部門）

安全対策委員会

メディカル委員会

アンチ・ドーピング委員会

アスリート委員会

女子委員会

技術部門・ハイパフォーマンス委員会

ラグビー競技における脊髄損傷への再生医療適応プロジェクト

財務委員会（財務部門）

1.活動実績

(1)2021 年度収支進捗への助言
(2)2022 年度予算策定方針についての助言
(3)2022 年度予算策定の進捗確認
(4)財産管理及び運用方針の改定案に関する助言

2.財務部門としての業務実績

(1)月次処理及び年次決算
(2)支払業務・資金管理
(3)2021 年度予算・実績管理の補助・2022 年度予算策定の補助
(4)精算システム活用による業務効率化推進
(5)財産管理及び運用方針改定案の策定補助

普及育成委員会（普及育成部門）

1.大会

(1)太陽生命カップ 2021 第 12 回全国中学生ラグビー大会は中止、代替企画として、交流試合（6 試合)、記念品贈呈、動画作成及び放映、観戦招待等を実施した
(2)第 27 回全国ジュニアラグビーフットボール大会（12 月 25～28 日、夢の島他）
(3)第 18 回全国小学生タグラグビー大会　中止
(4)FOR ALL ミニ・ラグビーフレンドリーマッチ　中止

2.指導者講習会

(1)有資格者数　スタートコーチ 9,329 名、C 級コーチ 311 名、B 級コーチ 1,107 名、A 級コーチ 1,090 名、S 級コーチ 97 名（2022 年 5 月 12 日現在）
(2)2022 年度資格新規取得者　スタートコーチ 1,359 名、C 級コーチ 0 名、B 級コーチ 158 名、A 級コーチ 156 名、S 級コーチ 22 名
(3)資格認定講習会　スタートコーチ認定講習会、C 級コーチ（中止)、B 級コーチ 5 会場、A 級コーチ 4 会場、S 級コーチ 1 会場
・研修会　JRFU S&C カンファレンス、AIG presents タグラグビー指導者向け講習会、ラグビースクールの指導者向け研修会

3.地域連携事業

放課後ラグビープロジェクト 5 会場（北海道、青森、徳島、岐阜、北九州）

安全対策委員会

1.委員会

6 月 25 日、9 月 29 日、12 月 14 日、3 月 25 日（オンライン）

2.安全・インテグリティ推進講習会

伝達講習会（2021 年 2 月開催）の後、安全・インテグリティ推進講習会を 2021 年 3 月～2022 年 2 月まで開催し、延べ 3,058 チームが受講した。受講実績の登録システムへの連携、受講アンケートの集計と改善対応を実施

3.ラグビー外傷・障害対応マニュアル改訂

安全対策関連動画情報、特定カテゴリー（スクール、シニア、女性アスリート）の安全対策、落雷に対する安全対策情報、JRFU の安全対策制度の案内等に関する内容を追加した

4.中長期展望の下、2022 年度に向けた新たな施策

登録者見舞金規程および実施要項を改訂すると共に、「脳損傷、硬膜下血腫受傷時の取り扱いに関する通達」の改訂を行った

5.普及・啓発活動

外傷・傷害の撲滅を目指し、啓発活動を継続的に実施した。具体的には、JRFU 機関誌において、安全対策に関する情報提供し、ホームページ「安全対策ページ」を通じて、夏季の練習・合宿における熱中症およびコロナ対策の注意喚起を行った

6.セーフティーアシスタント認定講習会

通年で開催、延べ 2,435 名受講した。セーフティーアシスタント認定証を受講者へ送付、ラグビーファミリーを利用したセーフティーアシスタントの管理、受講アンケートの集計と改善対応を行った

7.連携

JRFU 内で脳振盪に関する作業部会を組織。各部門と連携しながら、脳振盪のリスクに関する啓発を行った

メディカル委員会

1.取り組み

(1)委員会・医事担当部門会議、三支部連絡協議会
　メディカル委員会総会（3 月 20 日、日本青年館)、三支部連絡協議会（12 月 30 日、花園）
(2)医務担当・JRFU 主催試合（主管協会と連携）
(3)各カテゴリー日本代表チームメディカル部門担当（含む海外遠征）
　別添参照
(4)ラグビードクターカンファレンスの開催（2 月 12 日、大阪）
(5)WR メディカルカンファレンスへの派遣（WR マッチデイドクター資格の取得推進）（11 月 2～5 日、オンライン会議）
(6)東京 2020 大会の医療体制整備への協力（7 月 26～31 日）医師 40 名・歯科医師 3 名・看護師 3 名派遣
(7)アジア協会主催試合へのマッチデイドクター派遣　コロナのため派遣依頼、派遣実績ともになし
(8)各種大会・試合の感染症対策ガイドライン、マニュアルの作成

2.各カテゴリー日本代表チームドクター帯同

チーム名	期間	遠征地・キャンプ地	帯同Dr
男子15人制日本代表	2021年5月29日～6月13日	大分県別府市、静岡	高森幸平
男子15人制日本代表	2021年6月16日～7月18日	スコットランド、アイルランド	高森幸平
男子15人制日本代表	2021年9月10日～10月28日	菅平、宮崎、別府、大阪	高森幸平
男子15人制日本代表	2021年10月29日～12月6日	アイルランド、ポルトガル、スコットランド	高森幸平
女子15人制日本代表	2021年4月9日～10日	千葉県勝浦市	篠原靖司
女子15人制日本代表	2022年7月26日～28日	長野県上田市（菅平）	望月智之
女子15人制日本代表	2021年8月24日～26日	岩手県釜石市	篠原靖司
女子15人制日本代表	2021年9月23日～26日	千葉県市原市	篠原靖司
女子15人制日本代表	2021年10月12日～16日	長野県上田市（菅平）	篠原靖司
女子15人制日本代表	2021年10月26日～12月3日	菅平、ウェールズ、アイルランド、スコットランド	長谷川淳
女子15人制日本代表	2022年3月11日～13日、17日	静岡県掛川市	篠原靖司
男女7人制日本代表	2021年3月25日～4月10日	ドバイ	山下明浩
男女7人制日本代表	2021/4/22～23日	東京都府中市	五反田清和
男子7人制日本代表	2021年5月26日28日	宮崎市	五反田清和
女子7人制日本代表	2021年6月15日～16日	埼玉県熊谷市	五反田清和
男子7人制日本代表	2021年6月30日～7月3日	北海道札幌市定山渓	五反田清和
男子7人制日本代表	2021年7月15日～16日	東京都府中市	五反田清和
男女7人制日本代表	2021年7月29日～8月1日	東京オリンピック	五反田清和
男子7人制日本代表	2021年10月23日～25日	沖縄	五反田清和
男子7人制日本代表	2021年10月25日～26日	沖縄	田中誠人
男子7人制日本代表	2021年11月17日～29日	ドバイ	五反田清和
男子7人制日本代表	2021年11月25日～12月19日	ドバイ	田中誠人
男女7人制日本代表	2022年1月17日～1月31日	スペイン（マラガ、セビリア）	山下明浩
女子7人制日本代表	2022年2月17日	大分県日田市	五反田清和
U-20日本代表	2021年12月27日～30日	東京都辰巳	永山正隆
U-20日本代表	2021年12月28日～30日	東京都辰巳	高橋完靖
高校日本代表	2021年12月17日～19日	大阪府堺市	田中秀典
高校日本代表	2021年12月23日～25日	大阪府堺市	白井之尋
高校日本代表	2022年3月4日～8日	静岡県掛川市	白井之尋

トレーナー部門

2020Tokyo 以降に向けた現場でのプレーヤーの健康管理、外傷・障害予防、パフォーマンス発揮を支援する環境整備の立案、組織横断的協同事業の提案、実施、人材の育成

(1)人材育成事業（ラグビートレーナー育成）

(2)ハイパフォーマンス委員会（代表強化部門、技術部門)、普及育成委員会、専門委員会（女子委員会、安全対策委員会、アンチ・ドーピング委員会)、競技運営委員会との連携

(3)代表強化部門、トップリーグ部門との積極的連携

(4)女子ラグビー環境へのアスレティックトレーナー的支援

(5)教育・啓発関連資料、出版物の作成、発信それに伴う情報収集

1.事業報告

(1)人材育成事業

・トレーナーセミナー/研修会（関東地区、関西地区、九州地区）の開催（今年度はコロナ禍の状況を鑑み対面式開催を見送り、オンライン形式にて開催した）

・セミナー・JRFU トレーナーセミナー　1 月 11 日～3 月 31 日（フルオンデマンド形式）

・研修会・JRFU 女子ラグビー選手に関わる方のためのトレーナー研修会（オンライン）3 月 27 日

・日本スポーツ協会（JSPO)指導者育成事業連携（JSPO-AT 競技団体推薦者選定）

(2)他委員会との連携

・安全対策委員会連携事業：SA 認定講習会（オンライン）における運営、講師

(3)代表強化部門トップリーグとの連携

・アスレティックトレーナー人材支援

男子　15 人制日本代表、7 人制日本代表、U20 日本代表、高校代表

女子　15 人制日本代表、TID、7 人制日本代表/アカデミー

(4)女子ラグビー環境へのアスレティックトレーナー的支援

・代表強化現場へのアスレティックトレーナー人材支援

・女子ラグビー選手に関わる方のためのトレーナー研修会の開催

(5)教育・啓発関連資料の作成、発信

・大学ラグビーチームにおけるメディカルサポート体制の調査報告(ラグビー科学研究 2021.3 掲載)

・大学ラグビーチームにおけるアスレティックトレーナーの活動実態（2021.11 日本臨床スポーツ医学会学誌 Vol.29）

(6)2020Tokyo に向けた人材配置実施（7 月 26～31 日）

アンチ･ドーピング委員会

1.ドーピング検査事業

(1)（一社）日本スポーツフェアネス推進機構が立案し、（公財）日本アンチ･ドーピング機構（JADA）が実施する検査に協力した。検査の調整監視役（NF Representative）等に係る費用は toto 助成を活用した

(2)JADA および WR の居場所情報管理の対応についての指導助言および情報提供を行った

(3)治療使用特例（TUE）申請手続きの指導助言を 2 件行った

2.アンチ･ドーピング教育啓発活動

(1)JADA のアンチ･ドーピング教育啓発活動と連携しながら、WR の指示による教育プログラムを実施した。研修開催に関する諸費用は toto 助成を活用した

(2)各日本代表（男女)、リーグワン各チーム、3 地域大学リーグ上位校および全国大学選手権出場校に対して情報提供と関連資料の送付を行った。3 地域大学リーグ上位校にアンチ･ドーピング研修会を調整し実施した

(3)ジュニア世代（中学生、高校生）を対象に全国大会試合会場にてアウトリーチプログラム等を計画していたが、コロナ禍のため実施を見送った

(4)国内開催試合でのアンチ・ドーピング啓発活動はコロナ禍のため、実施を見合わせた

(5)コロナ禍に応じたニューノーマルなアウトリーチプログラムとして、アバターを通した教育資材・プログラムの開発を検討した

(6)ラグビー関係者からの禁止物質に関する問い合わせに対応した。二次元バーコード・電子問い合わせフォームを構築し、問い合わせが簡便にできるよう工夫し、競技者等からの問い合わせに対応した

(7)研修会で使用するアンチ･ドーピング確認テストを toto 助成により作成した

(8)協会ホームページ等でアンチ･ドーピングへの取組、情報等を発信した

(9)アンチ･ドーピング教育活動者への研修等 JADA からの情報を提供した

(10)安全インテグリティ推進講習会のスライドにて、全チームの代表者に対して、アンチ･ドーピングの基本的事項の情報を伝達した

(11)安全インテグリティ推進、アンチ・ドーピング啓発およびアスリートの健康の観点より、委員会委員の薬剤師による専門性を生かした資料作成を行った

アスリート委員会

1.委員会

アスリートファースト（プレーヤーズファースト）の理念の実現に向けた活動を基本方針とし、全ての国民、特にラグビー競技者、指導者、保護者並びにラグビーをする、見る、支えることを希望する将来を担う子供たちに向けてラグビーへの信頼を維持・確保する。そのため、本委員会委員を通じて選手の意見をくみ上げ、組織運営に反映させる取り組みを実施していくことを共有、重点課題についてディスカッションを行った（10 月 5 日）

(1)安全推進

「するスポーツ」として定着させることを目指す。安全対策の徹底により、ラグビーが安全なスポーツであるというイメージの定着を図る必要があることを議論

(2)安全対策の責任者の質的改善

代表以外に各カテゴリーにおける安全管理プロセスの確立。日本発で世界をリードするような安全管理プロセスの実現を目指す。特に脳振盪問題に関しての課題解決策を創出し、他部門と連携し実践することを共有（安全対策委員会、脳震盪作業部会、高校体育連盟ラグビー専門部、普及育成部門、技術部門、女子委員会他との連携）

(3)インテグリティ教育の実践

選手の環境と価値を守るため、インテグリティ教育コンテンツの充実と継続した教育による、指導者、選手の理解の深化。インテグリティ事案発生時の原因の把握。（リーグワン、インテグリティ推進部門、女子委員会他との連携）脳振盪問題についての現状説明を実施し、脳振盪問題の改善策、子供達、選手、指導者、保護者へのアプローチについて議論した

2.脳震盪作業部会との連携協議

アスリート委員会から脳震盪問題等を提議した（5 月 21 日）

3.施設環境整備プロジェクト委員会との連携協議

アスリートの目線から新秩父宮ラグビー場（仮称）における施設環境整備について協議した（4 月 27 日、7 月 24 日、9 月 8 日）

女子委員会

女子ラグビーの発展のため、各カテゴリーの大会の整備やユースキャンプの実施等により、選手の育成環境を整え、太陽生命ウィメンズシリーズへの昇格大会がコロナ禍で実施されていない中、リージョナル大会に参加しているチームがステップアップできるよう取り組んだ。また、各部門や委員会に対して女子ラグビーの発展に向けてご協力頂けるよう連携を取った

1.活動報告

(1)第 8 回女子ラグビー選手権大会
　決勝は当初小田原での開催予定であったが 2 チームがコロナによる棄権のため準決勝を急遽決勝とした。(1 月 31 日、鈴鹿)
(2)Regional Women's Sevens2021
　5 月 29～30 日（麗澤大)、6 月 19～20 日（静岡）
(3)U18 女子花園エキシビジョン　中止
(4)第 8 回大学女子 7 人制ラグビーフットボール交流大会　7 月 11～12 日（立正大）
(5)女子育成強化プログラム（9 ブロックにて実施）
(6)女子ユースキャンプ 2021
　選手向け（栄養）12 月 18～19 日、指導者向け（目標設定）12 月 25 日、2 月 26 日、集合実技講習（中止）

技術部門

専門性、多様性、一貫性 3 本柱を軸に、中長期計画策定指針に則り以下の活動に取り組んだ

1.部門方針

(1)マッチオフィシャルグループ
・世界の舞台で活躍できるレフリーの育成（人材発掘と早期育成、トッププレーヤーのレフリー転向の推進）
・新リーグを担当できるマッチオフィシャルの育成・強化と環境整備
・日本代表強化につながる各グレード（大学、高校、ジュニア・ミニ、女子、コーチング普及）におけるレフリングの統一
(2)ハイパフォーマンス戦略グループ
・将来を見据えた強化・育成に関する方向性の立案
・関連部門との方向性や情報の共有化
・課題の抽出と解決シナリオの検討
・国際戦略アドバイザー Mark Egan 氏との連携
(3)ユース戦略グループ
・U19、U17 の継続的な強化・育成
・選手発掘プロジェクトの推進
・ユースに関わるコーチの育成
・高体連との連携

(4)開発・科学情報グループ
・各年代別に習得すべきスキルとラグビーナレッジの整理
・普及育成部門の指導指針とのリンク
・情報の収集・分析・提供と科学的サポート
(5)評価グループ
・コーチ・スタッフの継続育成のための仕組みを評価側面から構築
・望ましい人物像、求められる資質の提示

2.活動報告

(1)マッチオフィシャルグループ
・WR・AR パネルレフリーの選出
・15 人制：RWC2023 および 2027 7 人制（オリンピック 2024 および 2028 に向けたパスウェイ 整備）
・ マッチオフィシャルアポイントメント
・ パネルレフリーのレフリング向上
・マッチオフィシャル育成（研修会の実施・コーチング）
・テレビジョンマッチオフィシャル判定基準の向上と 環境整備
・RWC2023 に向け、TID・アカデミーの活動計画策定（男女）
・RWC2023 に向け、海外レフリー受け入れの準備
・2023 年度に向け、海外研修計画、海外トップレフリーコーチ招聘
・レフリーコーチ養成
・レフリーエデュケーター・コーチング普及とシステムの構築
・資格制度運用（資格認定、システム管理、有資格者データベース運用）
・三支部および都道府県協会との連携（マッチオフィシャル普及活動）
・各グレードガイドライン作成

(2)ハイパフォーマンス戦略グループ
・強化拠点整備に関すること
・スタッフ育成プログラムに関すること
・国内主要大会の試合数、試合間隔に関すること
(3)ユース戦略グループ
・U19（高校日本代表）強化・育成　高校日本代表海外遠征は中止、高校日本代表候補エキシビジョンマッチ開催（3 月 7 日）
・U17（日韓中交流競技会）強化・育成は中止
・U17、U16 ブロックトレセン支援
・選手発掘プロジェクト（Bigman＆Fastman）
・ユースコーチの育成
・リソースコーチの活用
(4)開発/科学情報グループ
・コーチング教材の体系化（言語化）
・テーマ別研究
・ラグビージャーナル発刊
(5)評価グループ
・コーチ・スタッフ評価フィードバックシステム構築
・海外評価システムの検証

ハイパフォーマンス委員会

1.活動報告

各カテゴリー代表チームに関する助言を行った

(1)各カテゴリー日本代表ヘッドコーチ選考に関する資料等作成

(2)世界各国のヘッドコーチ動向等の情報収集

(3)代表強化部門および技術部門との連携

ラグビー競技における脊髄損傷への再生医療適応プロジェクト

1.目的

RWC2019 レガシー事業の一環として、再生医療領域における先端の医療機関の協力のもとプロジェクトチームを構成し、ラグビー競技における脊髄損傷への再生医療の適応を推進する

2.事業報告

(1)プロジェクトチームを組成し、プロジェクトを発足、メンバーで会議を実施

(2)脊髄損傷事故発生時の搬送システムの検討

(3)脊髄損傷再生医療研究の支援・推進（慶應義塾大学、札幌医科大学における研究支援のため寄付）

支部協会

関東ラグビーフットボール協会
関西ラグビーフットボール協会
九州ラグビーフットボール協会

関東ラグビーフットボール協会

1.メディカル委員会

(1)委員会活動

・総務委員会　各小委員会の支援、JRFU との連携
・傷害安全対策委員会　重症傷害データ分析と報告
・救急医療委員会　秩父宮医務室、医療用品の管理
・医師派遣委員会　協会主催試合へのマッチドクター派遣
・学術委員会　アンチドーピングに関する情報提供
・歯科委員会　マウスガードの普及と有用性の学術的検討

(2)都道県医務委員長会議

・9 月 3 日　重傷障害報告、都道県協会の現況報告 各県の大会開催状況、医師派遣状況、その他
・1 月 14 日　重症傷害報告、都道県協会の現況報告、その他 JRFU メディカル委員会への参加（3 月 20 日)、JRFU 主催試合（リーグワンを含む）の医務活動への協力、JRFU メディカル委員会共催第 6 回ラグビードクターカンファレンスへの協力（2 月 12 日）

2.レフリー委員会

(1)目標

・関東協会所属レフリー及びレフリーコーチの育成強化
・JRFU との連携によるハイパフォーマンスレフリーの育成
・都道県協会レフリーコーチの育成支援
・普及育成レフリーの育成支援
・女子レフリーの発掘と育成強化（横断）

(2)会議開催実績

・レフリー委員会　定例会議
・都道県レフリー委員長会議（3 月 20 日）

(3)研修会・講習会関係

・レフリー・レフリーコーチ研修会（9 月 2 日）
・関東トップレフリー研修会（5 月 19 日、6 月 17 日講習、春季試合での実技研修）
・Ｂ級レフリー認定講習会（7 月 27～28 日北海道、8 月 7～8 日菅平、8 月 7～8 日八幡平）
・レフリーコーチ講習会（WR/CMO レベル 1 コース　3 月 23～4 月 30 日）
・各種大会等レフリー研修会への委員・レフリーコーチ派遣
    ・関東高校大会レフリー研修会（6 月 4～6 日、成田）
    ・東北高校体育大会レフリー研修会　中止
    ・新潟県レフリー研修会　中止
    ・北海道レフリー研修会（7 月 26～28 日、北海道）

(4)JRFU 主催各種大会及び研修会

・全国高校 7 人制大会（7 月 17～19 日、菅平）
・三地域トップレフリー研修会（オンライン講習のみ）
・太陽生命女子セブンズシリーズ（5 月 1～2 日、東京、　6 月 5～6 日、熊谷）
・女子レフリー研修会（8 月 6～8 日、菅平）
・太陽生命カップ　全国中学生大会　中止
・第 101 回全国高校大会レフリー研修会（12 月 27～1 月 1 日、花園）

(5)レフリー及びレフリーコーチ派遣関係
・春季公式戦、定期戦、交流試合他各種大会（中学・Jr、高校、大学、クラブ、社会人等
・トップイーストトーナメント大会（5～6 月）
・7 人制大会（東日本クラブセブンズ、メディカルセブンズ等）
・秋季公式戦、定期戦、交流試合他各種大会（中学、ジュニア、高校、大学、クラブ、社会人
・NZ ウェリントンレフリー交流　中止
・全国ジュニア選抜大会（12 月 27～29 日　夢の島、江戸川）
・関東女子大会(12～2 月)

3.コーチ委員会

(1)指導者育成事業
・コーチカンファレンス（8 月 15 日～9 月 15 日、録画形式）
・各級（スタート・C 級・B 級・A 級・S 級）のコーチ講習会（北海道 55 人、青森県 11 人、岩手県 12 人、宮城県 15 人、秋田県 6 人、山形県 4 人、福島県 9 人、茨城県 43 人、栃木県 9 人、群馬県 15 人、埼玉県 82 人、千葉県 79 人、東京都 201 人、神奈川県 140 人、山梨県 10 人、長野県 4 人、新潟県 6 人、スタートコーチ講習会はオンライン開催)、C 級コーチ認定講習会はエデュケーター不在のため不実施、B 級・A 級・S 級コーチ認定講習会はオンラインでの実施
(2)地域推進事業
　コーチ委員会会議　中止
(3)コーチ派遣事業
　東北地区高専ラグビー講習会　中止

4.安全対策委員会

(1)活動目標
・重傷事故の予防に関する啓発活動を通じ、重傷事故ゼロに向けた取り組みを推進
・関係委員会と連携して試合・練習時の安全に関わる事項を企画推進
(2)JRFU 主催の安全対策委員会への出席
　6 月 25 日、9 月 29 日、12 月 14 日、3 月 25 日
(3)安全・インテグリティ推進伝達講習会の開催
　三支部協会同時に開催（2 月 13 日）
(4)総括
　コロナ感染拡大防止の観点から、安全・インテグリティ推進講習会については、オンライン受講を継続。移動時間、経費の削減等からオンライン方式に肯定的な意見が多い。今後もオンライン講習を活用しつつ、集合講習の利点である共通認識の円滑な醸成を図るべく啓発活動の深化・徹底を推進する

5.普及育成委員会

（中学生 RS 部門・中学校部門）

(1)方針
　前年に続き、コロナに悩まされる状況が続いた。春は感染拡大が収まらず、U15 中学生選手と関係者の方々の感染防止と安全を優先し多くの行事を中止。夏から年末まで感染が収束に向かったことからその間の予定行事は実施。但し、2022 年初から春にかけては再び騰勢を強めたため、行事中止を余儀なくされた。

(2)主催行事

・第 72 回関東中学校ラグビーフットボール大会（男子：中学校単独チーム)中止。

・太陽生命カップ 2021 第 12 回全国中学生ラグビー大会関東地区選考試合について、本大会は中止したが、7 月 25 日横浜にて全国大会選考試合のみ実施、國學院久我山、茗渓学園を関東協会代表として推薦

・第 15 回東日本 U15 中学生ジュニアラグビークラブ大会（男子：RS 単独チーム、女子：都道県選抜チーム・7 人制）

・太陽生命カップ 2021 第 12 回全国中学生ラグビーフットボール大会予選大会について、本大会は中止、RS の部は、8 月 7 日小山、15 日熊谷、21 日相模原で分散開催、ワセダクラブ RS、横浜 RS、レッドファイヤース JRC を関東協会代表として推薦。女子の部は、8 月 8 日南都留、8 月 14 日桜川にて分散開催、東京都女子代表、神奈川県女子代表、茨城県・千葉県女子代表を関東協会代表として推薦

・ジャンボリー（男女・RS/中学校等混合）

・第 23 回東日本ジュニアラグビー菅平ジャンボリー　中止（全国ジュニア大会の関東甲信越地区中学校の部の選考試合が併催）

・(男子・中学校都県選抜チーム）11 月 23 日横浜にて、選考試合 1 試合のみ実施　結果、東京都中学校代表、茨城県中学校代表を関東協会代表として全国ジュニア大会に推薦。茨城県中学校代表は埼玉県中学校代表が出場辞退したため不戦勝)

・第 2 回東日本ジュニアラグビー東北ジャンボリー（兼）第 42 回東北中学生交流大会）中止

・太陽生命カップ 2021　第 12 回全国中学生ラグビーフットボール大会東北北海道地区中学校予選試合（男子：中学校道県選抜チーム）8 月 14～15 日秋田、男鹿東・男鹿南・天王南中学校を関東協会代表として推薦

・第 41 回東日本中学生ラグビーフットボール大会

・(男子：中学校単独チーム）10 月 16～17 日山形、11 月 7 日茨城、東京、14 日神奈川、12 月 4～5 日東京にて開催。優勝國學院久我山、2 位成城学園、3 位茗渓学園

・第 27 回全国ジュニアラグビーフットボール大会（男子：RS 都道県選抜・女子：都道県選抜)東日本地区 RS の部、女子の部予選。10 月 10 日岩手、31 日長野、11 月 7 日茨城、13～14 日千葉、21 日山梨にて実施。RS の部は岩手県 RS 代表、千葉県 RS 代表、神奈川県 RS 代表、茨城県 RS 代表を、女子の部は神奈川県 RS 代表、東京都 RS 代表を関東協会代表として推薦

・第 18 回東日本 U15 中学生ラグビー選抜大会（男子・女子とも都道県選抜チーム）中止

(3)主管行事

・太陽生命カップ 2021（第 12 回全国中学生ラグビーフットボール大会、主管）中止

・第 27 回全国ジュニアラグビーフットボール大会（12 月 26～28 日、江戸川、夢の島）

（小学生・ミニラグビー・タグラグビー部門）

菅平ミニ・ラグビー・ジャンボリー交流大会（7 月）中止

6.クラブ委員会

(1)第 29 回全国クラブ大会（ 1 月 9 日、2 月 20 日、熊谷）
出場 13 チーム(関東 5、関西 5、九州 3)、関東から神奈川タマリバクラブ、北海道バーバリアンズ（出場辞退)、ハーキュリーズ（東京)、駒場 WMM（東京)、宇都宮 VOLT'S の 5 チーム出場。優勝ハーキュリーズ、準優勝愛知教員クラブ

(2)第 31 回東日本クラブ選手権大会（兼）第 29 回全国クラブ大会東日地区予選　9 月 12 日～11 月 21 日、熊谷・栃木総合・保土ヶ谷・三鷹大沢・YC&AC）
出場 18 チーム（北海道・秋田・山形・埼玉が辞退)、優勝宇都宮 VOLT'S（開催後 9 チーム辞退、決勝戦中止）

(3)第 18 回東日本トップクラブリーグ（11 月 7～12 月 12 日、長峰ヴェルディ他）
出場 12 チームにて交流戦開催。全試合交流戦としたため、全国クラブ大会には前年実績にて推薦

(4)第 40 回ラグビーフェスタ 2021（7 月 10～11 日、菅平）中止

(5)第 38 回東北クラブ選手権大会　中止

(6)第 28 回ラグビーフェスタ 2021（7 月 17～18 日、八幡平）
出場は東北各県クラブチーム、東北各県セブンズチーム。東北学院大、八戸学院大学、岩手大学・盛岡大学合同の交流戦を実施

(7)東日本クラブセブンズ 2021（5 月 2 日社会人クラブ、熊谷、6 月 13 日学生クラブ、江戸川）中止

(8)学生クラブ東西交流ラグビーフェスティバル 2021（9 月 3～5 日、菅平）中止

(9 サンケイスポーツ杯第 29 回関東学生クラブ選手権大会（9 月 19 日～11 月 28 日、サンケイスポーツセンター他）
出場は 1 部（7 チーム)、2 部（6 チーム)、交流戦（4 チーム)、1 部優勝山梨学院大グリーンイーグルス（東西学生クラブ対抗試合へ派遣)、準優勝早稲田大 GW、2 部 1 位慶應義塾大学理工学部、 2 位くるみクラブ

(10)第 20 回東西学生クラブ対抗試合・関東代表派遣（12 月 19 日、兵庫）関東、関西の学生クラブ選手権大会の覇者による対抗試合。山梨学院大学グリーンイーグルス 52－0 関西学院上ヶ原

(11)東日本マスターズ大会 2021（9 月 20 日、駒沢）
参加 8 チーム、優勝練馬クラブ、準優勝コスモス市川りとる

(12)東北クラブ委員長会議（7 月 18 日、八幡平）
東北 6 県クラブ委員長及び関東協会クラブ委員が参加

(13)都道県クラブ委員長会議（3 月 26 日、秩父宮）
・2021 年度各都道県協会クラブ委員会事業報告
・2021 年度クラブ委員会事業報告
・2022 年度クラブ委員会事業計画確認
・現状の事業の検証及び 2023 年度以降の事業の検討協議

(14)クラブ委員会・総務委員会・学生クラブ運営会議

7.セレクションコミッティ・強化委員会

(1)NZU 来日関連
2022 年春季 NZU の来日の打診あるもスケジュールの都合つかず断念

(2)委員による試合視察　秋季公式戦、対抗戦・リーグ戦

(3)その他

8.社会人委員会

(1)各種大会の実施・参加

・第 76 回国民体育大会 ブロック国体・本国体（佐野、熊野）中止

・リーグワン・トップイーストリーグ（春季・秋季)・関東社会人リーグ

(2)全体会議

・社会人委員会開催

大会要項・順位決定方法等大会規約の検討・決定、トップイーストスケジュール作成

・17 都道県社会人委員長会議（3 月 26 日）

・3 地域社会人委員長合同連絡会議

3 地域リーグ交流戦等の検討、地域リーグ現状確認

(3)チームとの意見・情報交換会

チーム感染症対策情報交換、活動状況の把握

9.女子委員会

(1)OTOWA カップ第 32 回関東女子ラグビーフットボール大会（12 月 12～1 月 15 日）

参加チーム：Brave Louve、日本体育大学ラグビー部女子、RKU グレース、横河武蔵野 Artemi-Stars、東京山九フェニックス、PTS 立正、合同 A（YOKOHAMA　TKM、弘前サクラオーバルズ、国際武道大学ラグビー部女子)、八戸学院大学（辞退）

優勝横河武蔵野 Artemi-Stars、2 位 RKU グレース、この 2 チームは第 8 回全国女子ラグビーフットボール選手権大会に出場

(2)ルーパス/ルーヴカップ第 5 回関東 U18 女子セブンズラグビーフットボール大会（3 月 27 日）

参加チーム：Brave Louve、ARUKAS YOUTH、桐蔭学園高校、群馬プライムス、横河武蔵野 Artemi-stars、流通経済大学付属柏高校合同、栃木・福島・新潟合同、茨城長野合同

優勝 ARUKAS YOUTH、2 位 Brave Louve、この 2 チームはサニックスワールドラグビーユース交流大会 2022 に出場

・ガールズラグビーフェスティバル　中止

(3)チームとの意見交換会

・女子ラグビー選手のキャリア調査アンケート実施

・意見交換会結果より課題抽出後、アクションプランを制定し実践中

10.大学委員会

(1)第 22 回東日本大学セブンズ　中止

(2)第 10 回関東大学春季大会（5 月 2～6 月 13 日）

大会形式は、対抗戦対リーグ戦とし、同リーグ間の試合は実施せず。順位の決定も行わなかった

(3)第 9 回関東大学オールスターゲーム　中止

(4)リーグ戦・対抗戦（9 月 12～12 月 5 日）

対抗戦 A1 位　帝京大学、リーグ戦 1 部 1 位　東海大学

対抗戦入替戦（12 月 12 日)、リーグ戦 1 / 2 部入替戦（12 月 11 日）

(5)第 43 回関東大学ジュニア選手権（9 月 5～12 月 4 日）

大会形式は、参加 20 チームを、5 チーム×4 チームカテゴリーに分けリーグ戦とし、入替戦と順位の決定は行わなかった

(6)第 72 回全国地区対抗　関東 1 区、2 区代表
　1 区：東京学芸大学、2 区：茨城大学
・第 70 回関東医歯薬リーグ（10 月 17～11 月 14 日）
　参加可能なチームのみで試合を行った

11.高校委員会

（各種大会・予選会・全国大会）

(1)地区大会
　第 48 回北海道高校大会（7 月 25～30 日、定山渓)、第 72 回東北高校大会（6 月 17～20 日、八幡平）中止、第 69 回関東高校大会（ 6 月 4 ～ 6 日、成田)、第 43 回北信越高校大会（ 6 月 19～20 日、長岡）
(2)U16 ブロクトレセン・U17 ブロックトライアウト
　北海道ブロック U17（ 6 月 5 日)、U16（11 月 13 日)、東北ブロック 7 月 2 ～ 4 日（青森)、関東ブロック U17（ 6 月 25～27 日）中止、U16（11 月 28 日、熊谷)、北信越ブロック（6 月 25～27 日、菅平）中止
(3)ブロック国体（第 76 回国民体育大会予選会）
　北海道大会（6 月 10～12 日、帯広)、東北大会（8 月 19～21 日、天童)、 関東大会（8 月 27～29 日、佐野）中止、北信越大会（ 8 月 22 日、菅平、 1 回戦のみ実施、以降中止)、
(4)第 23 回全国高校選抜大会地区予選
　北海道新人大会（11 月 3～6 日、 北斗)、東北新人大会（2 月 9～12 日、いわき）中止、関東新人大会（ 2 月 12～20 日、熊谷、江戸川）中止、北信越大会（ 2 月 13～20 日、石川）規模縮小して開催
(5)合同チーム大会
　北海道大会（ 5 月 3 ～ 4 日、帯広)、東北大会（6 月 24～26 日、青森)、関東大会（ 5 月 28 日、小山、栃木)、北信越大会（ 3 月 25～27 日、おおい町）
(6)第 76 回国民体育大会（9 月 30～10 月 4 日、三重）中止
(7)第 101 回全国高校大会（12 月 27 日～1 月 8 日、花園）
(8)関東都県対抗戦（ 2 月 13 日、熊谷）中止
(9)第 23 回全国高校選抜大会（ 3 月 24～31 日、熊谷）

（その他）

(1)第 8 回全国高校 7 人制大会　大会主管
(2)第 4 回全国 U18 女子セブンズラグビー大会　大会主管
(3)第 46 回高校ラグビー指導者研修会（ 1 月 7～9 日、東京）
(4)第 23 回全国高校選抜大会
(5)高等専門学校チームとの普及・強化に向けた事業
　各種大会への参加・新規大会の企画

（市町村協会担当）

JRFU 戦略企画の中枢を成す「ラグビーファミリーを増大させる」という課題の下、全市町村にラグビー協会を設立するミッションに関東協会としての独自の取り組みを行ってきた。協会新設に向け、JRFU「市町村協会新設補助金」の活用も推奨。競技人口の増加だけでなく、「観客数（ファン）の増加、ラグビーの支援者（関係者・関心者）の増加」までを含む「するラグビー」「観るラグビー」「支えるラグビー」全ての拡大を目指すことを 2020 年までの中期的計画の一環として取り組んでき

たが、2021 年度に於いてもコロナ禍の影響が続き、まん延防止等重点措置発令に拠る各協会での活動も中止や大幅に制限された 1 年となった。

12.広報委員会

オウンドメディア（HP・FB）の閲覧増、協会の事業目標（上位目標）への貢献、一般メディア（新聞、雑誌、ネット）への露出増は、コロナの影響もあり充分な成果があったとは言えなかったが、計画していた施策については概ね実行することができた

(1)広報業務の品質向上と標準化

・業務マニュアルの策定
　全広報委員に展開し、都道県協会広報委員会にも共有した

・東京都協会との一体化運用、要員の拡充
　実施中。共同会見、報道受付、公式記録等の試合当日の広報関連業務に対応できる人員拡大のため、これまで担当することが少なかった都協会広報委員の研修・実践を進め徐々に担当を配分、関東・東京都の全広報委員一体で対応

(2)メディアとの能動的なコミュニケーション

・シーズン前の取材ルール提示と調整（幹事社を通じて）
　幹事社とは開幕前、また開幕後も必要に応じて協会方針の事前提示や調整に努めた。

・発生した課題、問題等への対応
　大学のシーズン中、オンライン会見の時間や登壇選手について、またルールを遵守しない記者について幹事社より問題提議あり。話し合いにて解決。その他臨機応変に対応

(3)発信情報の拡大

・個人記録（出場、得点等）の公開
　運営サイトの試合記録から、対抗戦 A とリーグ戦 1 部のチームおよび個人の通算記録を作成するプログラムを開発、両グループ別のランキング形式で HP 掲載

・他の委員会/カテゴリー（社会人、高校以下、女子）の情報
　女子は担当者が FB を中心に積極的に発信

・プロモーション動画（PV）の活用（SNS 投稿等）
　大学の PV は YouTube 公式チャネルおよび動画へのリンクの SNS 投稿を実施。21,266 回の視聴を獲得

(4)HP とメールや SNS の連動

・協会リリース（HP 掲載）時のメール送信および FB やツイッターへの投稿連動。それぞれの自動化。自動化は未遂だが、HP 掲載にリンクさせた FB 投稿は実施

・配信先となる関東ファン（メールアドレス）登録の実施検討未遂。今後も継続検討。

(5)道県協会との連携

・道県協会広報との情報や意見の交換　随時実施

・広報マニュアルの共有実施

・JRFU 機関誌「RUGBY」の関東協会頁に道県協会トピックの掲載
　（道県協会による寄稿）8 都道県協会のトピックを掲載。来年度は残り 9 県を予定しており管下の全 17 協会を完遂する

13.登録者傷害見舞金審査委員会

各都道県協会より報告された傷害報告、見舞金請求（診断書）に対し、2 か月に 1 回、審査委員会実施した。登録者傷害見舞金制度、関東協会管轄下分について収支明細及び見舞金支給者名簿を作成し、JRFU へ報告した

14.競技委員会

(1)公式戦の日程調整及び決定

各地区での有料試合調整と運営を実施

(2)関東協会主催・主管試合への担当理事・競技委員の決定及び派遣

ボールパーソンの派遣依頼等を実施

(3)競技運営向上施策

担当業務（伝令、医師、ボールパーソン、担架、HIA タイムキーパー、危機管理）のローテーションを行い、各スキルの向上を図った。また、危機管理体制強化に向け、危機管理担当と警備会社との職務分担連携を確認した

(4)コロナ対策

JRFU・警備会社・関東協会との連携による安全予防対策を行った。また、検温、消毒液を配置して予防対策を実施した

(5)無観客試合関連

各大学グラウンドでの無観客試合において、マッチコミッショナーの他に複数名のサブコミッショナーを派遣し、警備会社との連携によるコロナ対策を実施した

(6)業務マニュアル

リニューアルを実施した

15.選手資格審査委員会

(1)ラグビーファミリー登録のチェック

(2)外国人選手登録のチェックと審査

(3)個別案件の迅速な対応（移籍・留学・その他）

16.規律委員会

トップリーグ表彰懲罰規程に準拠した不行跡、不規律の処置を実施した。その他、シンビンの計数ならびに公開、イエローカード累積 3 枚時の処置は該当なし

17.法務総務委員会

(1)関東協会規約その他の諸規定の整備

(2)公租公課に対する対応

(3)労務管理の整備

(4)法令遵守（コンプライアンス）の推進

(5)各委員会間、JRFU 及び都道県協会との調整作業

(6)その他

関西ラグビーフットボール協会

1.医務委員会

(1)総務部会 3 回開催（7 月、11 月、1 月）
(2)総会開催（2 月）
(3)関西協会管下各地域におけるピッチサイド医務活動の実施（ドクターの派遣）
（JRTL、JRLO、全国大学選手権、全国高校大会、全国高専大会等）

2.総務委員会

委員会開催（11 回）

3.レフリー委員会

(1)大学春季トーナメント等、春シーズンのレフリー割当（5～7 月）
(2)レフリーミーティング開催（5～7 月、9～12 月、月 3 回）
(3)関西デベロップメントスコッド（KDS）候補研修（5～7 月）
(4)学生レフリー研修会の実施（7 月）
(5)高校・大学ユニット研修（8 月、菅平）
(6)大学リーグ、TWL 等秋シーズンのレフリー割当（9～12 月）
(7)関西パネル認定研修（2 月、和歌山）
(8)関西パネル昇格認定研修（3 月、和歌山）
(9)B 級認定講習会の開催（東海地区、近畿地区、四国地区）

4.強化・セレクション委員会

(1)委員会開催（9 月、1 月）
(2)試合の視察（関西大学 A・B リーグ、大学選手権等：10～1 月）
(3)関西学生代表候補選手の選定は実施したが、試合が見込めないために最終選考は行わず
(4)関西大学 A リーグ全試合の POM の選出
(5)関西大学 A リーグの出場選手リストを社会人チームに開示し、リクルート対象になるように働きかけた

5.コーチ委員会

(1)総務部会を JRFU コーチ部門会議と合同で開催。(5 月、8 月、10 月)
(2)コーチカンファレンス開催（オンデマンド方式：9 月 1 ～30 日）
(3)特別セミナー「プレーヤーセンタード・コーチングを考える」の開催（9 月 26 日）
(4)全国コーチ委員長会議（9 月、11 月、2 月）随時、3 地域（関東、関西、九州）に分かれて打ち合わせ等。
(5)A 級コーチ講習会（2 月 9～12 日、関西）
(6)B 級コーチ講習会（11 月 20～23 日愛知、1 月 15～22 日大阪）
(7)C 級コーチ講習会　中止
(8)C 級コーチエデュケーター講習会（3 月 20 日、関西）

6.U15 普及育成委員会

(1)中学・スクール部門会、中学・スクールブロック長会、スクール部門会の実施
(2)第 11 回太陽生命カップ全国中学生大会　関西ブロック予選（6 月）中止
(3)第 42 回関西中学生ラグビーフットボール大会（7 月・8 月、岐阜）

(4)第 23 回関西中学生ラグビーフットボールジャンボリー（7 月・8 月、岐阜）
(5)第 11 回太陽生命カップ全国中学生大会　代替試合（9 月、天理）
(6)第 26 回全国ジュニア近畿ブロック予選（11 月、和歌山）
(7)第 11 回関西スクール新人交流会（3 月）中止

（女子中学生部門）
(1)太陽生命カップ 2021 関西地区予選・春季大会（7 月、奈良、兵庫）
(2)第 27 回全国ジュニア・ラグビーフットボール大会関西予選・秋季大会（10 月、大阪）

7.U12 普及育成委員会
(1)部門会議開催（4 回）
(2)関西ミニ・ジャンボリー大会（6 月、淡路）中止
(3)四国ブロック夏季研修会（8 月、高知）中止
(4)北陸ミニ・ブロック大会（9 月、福井）中止
(5)ラグビーマガジンカップ開催（10 月、堺）30 チームに縮小
(6)スクール指導者セミナー（2 月）中止
(7)女子交流大会（2 月）中止

（タグラグビー部門）
(1)部門会議開催（4 回）
(2)岡山ドームタグ大会（9 月）中止
(3)西条ドームタグ大会（9 月）中止
(4)全国小学生タグ選手権大会　府県予選実施（18 府県ブロック大会）中止
(5)クリスマスカップ関西小学生タグチャンピオンシップ（12 月、滋賀）
(6)小松ドームタグ大会（2 月）中止

8.安全対策委員会
(1)安全・インテグリティ推進伝達講習会を各府県の安全対策委員長・医務委員長・コーチ委員長を対象にオンラインで実施した
(2)府県協会向けの安全・インテグリティ推進伝達講習会をオンラインで実施した
(3)対面での講習会実施の府県もあり
(4)重傷事故ゼロを合言葉に、各チームに安全対策の実施を依頼してきたが、目標達成はできなかった

9.社会人委員会
(1)トップウェスト各会議（9 回）
(2)トップウェストリーグ戦（愛知、京都、大阪、兵庫）
A リーグ（2 カンファレンス制、10～12 月）、B リーグ（2 カンファレンス制、10～12 月）、C リーグ（2 カンファレンス制、10～12 月）トップウェストリーグ参入チャレンジマッチ（2 月）中止

10.クラブ委員会
(1)委員会開催（6 月）
(2)関西クラブ大会協議会（7 月）、関西クラブ大会（9 月、岡山）の中止を決定

(3)近畿リーグ（9 月～2 月、京都、大阪、奈良、兵庫）
(4)東海社会人クラブリーグ　中止
(5)全国クラブ大会中四国予選（5～10 月）
(6)関西学生クラブ選手権（9～12 月）

11.大学委員会
(1)委員会開催（2 回）
(2)リーグ総会（7 月、大阪）
(3)大学 A リーグプレスカンファレンス（9 月、大阪）
(4)各リーグ戦（10～12 月）
(5)関西大学リーグベスト 15 表彰（表彰式は中止）

12.高専委員会
(1)実行委員会（11、12 月）
(2)第 52 回全国高等専門学校大会（1 月、神戸）

13.高校委員会
(1)関西少人数交流大会（6 月、大阪）中止
(2)高校委員会
(3)第 101 回全国高等学校ラグビーフットボール大会（12 月 27～1 月 8 日、花園、準々決勝より有観客）
(4)各ブロックの高校大会、普及指導講習会

14.女子委員会
(1)関西女子大学生フィオーレリーグ（11 月、神戸）中止
(2)第 24 回女子ラグビーフットボール関西大会（11、12 月、兵庫・三重）
(3)サニックスワールドユース交流大会女子セブンズ関西予選（3 月、大阪）

15.スケジュール調整委員会
(1)スケジュール調整会議（4 回）
関西大学 A リーグ日程調整を実施（4 月 22 日、8 月 19 日、11 月 25 日、2 月 24 日）

16.広報委員会
(1)委員会開催（6 月・3 月）
(2)オンライン記者懇談会
(3)関西協会主催試合（大学 A リーグ、TWL）のマッチレポート作成

17.ツアー委員会　国内外の全てのツアーが中止

18.WMG 委員会　WMG2021 大会は再度の延期が決定

19.傷害見舞金審査委員会
委員会の開催（11 回）

九州ラグビーフットボール協会

1.レフリー委員会

(1)各県委員長会議
6 月 12 日、12 月 4 日、2 月 12 日（福岡)、評価会議 7 月 22 日、3 月 20 日（福岡）
(2)レフリー研修会
九州地区トップレフリー研修会（8 月 1 ～3 日、大分）
九州地区レフリー研修会（7 月 30～8 月 1 日、大分）
九州地区 B 級レフリー認定講習会　レベル 1 講習（8 月 21 日)、筆記実技試験（12 月 18 日熊本、12 月 19 日福岡）
三地域トップレフリー研修会 8 月
(3)各県巡回指導研修会　1～3 月　中止
(4)レフリー研修会講師派遣
(5)レフリー派遣
(6)レフリーコーチおよび評価
(7)コーチ・アセッサー研修会（JRFU エデュケーター認定講習会）（12 月 4～5 日、福岡）
(8)レフリー評価委員会（ 3 月 20 日、福岡）
(9)九州アカデミー研修
(10)女子レフリー研修会
東日本ジャンボリー大会・研修会（7 月、菅平)、全国女子ラグビー大会 MO 参加、女子集合研修（2 月）中止
(11)海外交流（11 月）中止

2.社会人委員会

(1)第 59 回九州セブンズ（木元杯全九州 7 人制）（4 月 11 日、熊本）
(2)第 40 回九州地区国民体育大会（成年の部、8 月 27～29 日）中止
(3)トップリーグ戦・トップチャレンジリーグ戦（2～4 月)、プレーオフトーナメント（4～5 月）
(4)トップキュウシュウリーグ戦（9～11 月）中止
(5)トップキュウシュウリーグ戦入替戦（12 月）中止
(6)トップキュウシュウリーグ代表者会議（8 月中止、2 月 11 日福岡）
(7)リーグワンリーグ戦（D1・D2・D3）（1～5 月）

3.クラブ委員会

(1)各県クラブ委員長会議　8 月 9 日（中止)、11 月 14 日、総務委員会 5 月、8 月、11 月（中止)、2022 年 1 月（福岡）
(2)第 40 回九州惑大会日程変更　11 月 28 日（鹿児島）
(3)第 17 回九州トップクラブリーグ戦日程・(トーナメントへ変更、10 月～12 月）優勝　やんばるクラブ、準優勝川南クラブ、3 位福岡かぶと虫（以上 3 チームは全国大会出場)、4 位玄海タンガロア、5 位玖珠クラブ、6 位甲南クラブ　7 位帆柱クラブ、8 位熊本サンデーズ
(4)第 47 回 全九州クラブ・実業団大会　11 月 20～21 日、佐賀・宮崎出場辞退により 6 チームにて実施、決勝 12 年 5 日、熊本）
(5)九州トップクラブ入替戦（自動昇格）
(6)第 28 回全国クラブ大会　川南クラブ、やんばるクラブ辞退　1 月 9 日（北九州)、 2 回戦 1 月 23 日（北九州)、準決勝 2 月 6 日、決勝 2 年 2 月 20 日（熊谷）
(7)第 3 回リーダー講習会（3 月）中止

4.大学委員会

(1)会議及び講習会

大学委員長会議（7 月、8 月、10 月、3 月)、普及指導講習会（3～9 月）中止

(2)第 60 回九州商経大学大会（6 月）中止

(3)第 70 回九州地区大学大会（インカレ、12 月）中止

(4)第 29 回九州学生リーグ戦（9～11 月、福岡他）

Ⅰ部リーグ　①福岡大、②日本文理大、③福岡工業大、④九州共立大、⑤鹿児島大、⑥九州大、⑦西南学院大、⑧志學館大

Ⅱ部リーグ　①熊本大、②長崎大、③九州産業大、④琉球大、⑤大分大、⑥立命館アジア太平洋大、⑦宮崎大、⑧沖縄国際大

Ⅲ部リーグ　①名桜大、②九州歯科大、③北九州市立大、④久留米大、⑤九州工業大、⑥佐賀大

(5)第 21 回九州学生Ⅲ部優勝決定戦（11 月、沖縄）

(6)九州学生リーグジュニア戦（9～11 月、福岡他）

(7)九州学生リーグ入替戦　中止

(8)第 58 回全国大学選手権（11～12 月、福岡他）

5.高専委員会

(1)第 30 回九州高専チームリーダー講習会（ 3 月）中止

(2)第 30 回九州高専新人大会（5 月）中止

(3)九州高専委員長会議（11 月）

(4)第 57 回九州地区高専大会（11 月、大分）優勝　久留米高専

(5)第 52 回全国高等専門学校大会（ 1 月、神戸）準優勝　久留米高専

6.高校委員会

(1)サニックス 2021 ワールドユース交流大会（4 月 28～5 月 5 日、福岡）中止

(2)第 10 回全国高等学校女子合同大会 九州代表選考会

5 月 22～23 日（福岡、延期)、 7 月 25 日（福岡）

(3)第 73 回全九州高等学校大会（6 月 18～22 日、大分）中止

(4)九州高体連ラグビー専門部委員長会議（6 月 19 日、大分）中止

(5)九州高校強化委員会（6 月 19 日、大分）中止

(6)U17 九州代表選考合宿（7 月 3～5 日、湯布院）中止

(7)U16 九州ブロックトレセン（7 月 3～5 日、湯布院）中止

(8)第 10 回全国高等学校女子合同大会九州代表強化合宿（7 月 10～11 日、福岡）中止

(9)第 40 回九州地区国民体育大会（8 月 27～29 日、福岡）中止

(10)第 3 回九州高校 U18 女子セブンズ（9 月 11～12 日、福岡）中止

(11)第 101 回 全国高校選手権大会 各県予選（10 月～、各県）

(12)第 12 回U16・U17 九州交流会（12 月 4～5 日、福岡）

(13)サニックス 2022 ワールドユース交流大会予選会 （1 月 1～5 日、福岡、1 月 1 日のみ実施)

(14)第 44 回木元杯全九州高校新人大会（2 月 18～23 日、熊本、短縮開催）

(15)第 9 回九州高等学校選抜女子セブンズ大会（2 月 20 日、熊本）

(16)九州高校委員会及び強化委員会（2 月 19 日、熊本）

(17)TID ユースキャンプ西日本トレセン（3 月 4～6 日、山口）中止

(18)次年度U17 九州代表候補合宿（3 月 5～7 日、湯布院）中止

(19)第 22 回九州高校 10 人制大会（3 月 18～20 日、鹿児島）

7.コーチ委員会

(1)全国委員長会議（9 月 11 日、11 月 13 日）
(2)JRFU コーチカンファレンス（9 月 1～30 日）
(3)S 級コーチ養成講習会（6 月 12～13 日、19～20 日、7 月 9～11 日。23～25 日、11 月 24～26 日）
(4)A 級コーチ養成講習会（7 月 28～31 日福岡、7 月 15～19 日関東、2 月 9～13 日関西）
(5)トップアスリート推薦者講習会（6 月 23～27 日、東京）
(6)B 級コーチ養成講習会（1 月 8～16 日福岡、10 月 23～31 日北海道、11 月 20～23 日愛知、12 月 18～26 日東京、1 月 15～23 日大阪）
(7)C 級コーチ養成講習会　中止
(8)スタートコーチ養成講習会
(9)ブラッシュアップ講習会
(10) 2022 年度 C 級コーチエデュケーター（コーチ養成者）養成講習会（3 月 27 日）

8.中学委員会

(1)第 1 回各県委員長会議（4 月 3 日、福岡）
(2)第 43 回新島杯九州ジュニアラグビー大会（7 月 30～8 月 1 日、鯛生）
(3)第 4 回九州女子中学生ラグビー大会（7 月 31～8 月 1 日、鯛生）
(4)第 2 回各県委員長会議（7 月 31 日、鯛生）
(5)第 34 回新島旗九州中学校ラグビー大会（8 月 1～3 日、鯛生）
(6)第 22 回ジュニアラグビー九州ブロック大会（男子・女子、11 月 13～14 日、鯛生）
(7)第 3 回各県委員長会議（11 月 13 日、鯛生）
(8)九州 Jr インストラクター会議（11 月 13～14 日、鯛生）
(9)第 23 回九州ジュニアラグビー福岡ジャンボリー（1 月 21～22 日、福岡）中止
(10)第 23 回九州ジュニアラグビー島原ジャンボリー（2 月 12～13 日、島原）中止
(11)ジュニアラグビー指導者講習会

9.普及育成委員会

(1)会議・研修会
・普及育成担当者研修会委員会（5 月 15 日、福岡）
・タグ部門長会議（6 月 27 日、鹿児島）
・ラグビースクールプロモーション講習会（未実施）
・タグラグビーエディケーター講習会（8 月 1 日、大分）
・九州 MRR 認定講習会（8 月 20～23 日、熊本）
(2)ミニラグビー
・第 48 回九州少年ラグビー交歓会（8 月 20～23、熊本）
・第 22 回西九州ブロック交流大会（10 月 17 日、佐賀）
・第 22 回東九州ブロック交流大会（11 月 7 日、熊本）
・第 22 回南九州ブロック交流大会（12 月 12 日、宮崎）
・第 14 回沖縄県ブロック交流大会（2 月 12 日、沖縄）
・第 10 回トライドリームカップ（11 月 19～21 日、大分）
・九州女子ミニラグビー交流会（3 月 13 日、長崎）

(3)タグラグビー
・九州タグフェスタ（9 月 12 日、長崎）
・パナソニックタグフェスタ（未実施、福岡）
・タグラグビーティーチャー研修会（8 月 1 日大分、11 月 28 日長崎）
・第 16 回九州女子タグラグビー大会（11 月 28 日、熊本）
・第 18 回全国小学生タグラグビー全国大会予選（沖縄ブロック予選、12 月 19 日、沖縄、九州ブロック予選、1 月 16 日、佐賀）

10.安全対策委員会
(1)高専リーダー講習会にて研修会（4 月、熊本）中止
(2)安全・インテグリティ推進講習会（4～5 月、各県）
(3)セーフティーアシスタント認定講習会（4～7 月、各県）
(4)安全・インテグリティ推進伝達講習会（1 月、福岡）
(5)2022 年度　九州協会スケジュール会議において研修会（2 月 11 日、福岡）
(6)九州メディカル・安全対策委員会合同総会（委員長会議、3 月、福岡）

11.強化・セレコン委員会
(1)第 58 回九州セブンズ（木元杯全九州 7 人制）大会（4 月 10～11 日、熊本）
(2)大学生合同練習指導（ 6 月、 9 月）中止
(3)トップキュウシュウリーグ A、九州学生リーグ視察（10～11 月、各地）
(4)強化・セレコン委員会（九州代表セレクト会議、 1 月）中止
(5)三地域強化委員長会議（3 月）中止

12.総務委員会
(1)会員名簿作成（8 月）
(2)主要スケジュール、メンバー表の作成、配布
(3)九州及び各県公式記録の編集のデータ化（10 月 1 日）

13.広報委員会
(1)JRFU 機関誌への投稿記事作成（年 4 回）
(2)九州協会公式ホームページ、SNS 等での情報発信
(3)各県広報委員長会議（3 月）
(4)メディアへの情報発信・情報交換
(5)報道機関への大会等開催及び結果リリース

14.メディカル委員会
(1)公式戦マッチドクター派遣（各県）
(2)九州メディカル総務委員会（9 月 4 日、 3 月 5 日、福岡）
(3)メディカル委員会・安全対策委員会合同総会（3 月 5 日、福岡）
(4)日本代表チーム帯同医師派遣への協力、合宿時メディカルサポート
(5)トップリーグチャレンジ、トップリーグ・メディカルコントロール
福岡 2 試合、大分 1 試合、熊本 1 試合
(6)リーグワン・メディカルコントロール
福岡 5 試合、大分 1 試合、熊本 1 試合、鹿児島 1 試合
(7)医科系安全実技講習会開催（3 月 27 日、福岡）
(8)WR メディカル資格講習会開催　中止

15.女子委員会

(1)女子委員長会議（5 月福岡、12 月佐賀）
(2)サニックスワールドユース女子セブンズ大会（4 月、福岡）
(3)南部九州女子交流大会（5 月）中止
(4)北部九州女子交流大会（6 月）中止
(5)第 10 回九州ガールズフェスタ（12 月、佐賀）
(6)サニックスガールズセブンズキャンプ（3 月、福岡）
(7)九州ウィメンズセブンズ（新規大会、2 月、福岡）

16.マーケティング委員会

(1)賛助会員募集強化策の検討・実施
(2)スクラム組もうぜ九州の施策の実施
(3)九州協会公式ホームページ・SNS の活用
(4)マーケティング委員会開催
(5)メディアとの意見交換会

17.登録者傷害見舞金運営委員会

(1)登録管理
　各県各月登録状況管理、登録費入出金管理、登録費決算管理（4 月)、登録関連資料作成
(2)傷害見舞金管理
　傷害報告受付管理、傷害見舞審査会開催（毎月)、傷害見舞金払出管理（毎月)、傷害見舞金決算管理（ 4 月)、傷害見舞関連資料作成管理